

熊本商工会議所

2017年経済予測アンケート

調査結果

KEY WORD

- ★景気の現状 … 「やや悪化」が31.3%でトップ
「かなり悪化」7.3%と合わせると約4割が悪化と回答
- ★景気の回復予測 … 「わからない」が36.7%でトップ
具体的な時期についてはばらつきが見られる
- ★産業別予測 … 【全業種】「やや好転」が33.6%でトップ
次いで「変わらない」が25.9%
「好転」割合が高い業種
【建設業】88.0% 【運輸・通信業】52.1%
「悪化」割合が高い業種
【卸売・小売業】27.5% 【飲食業】26.7%
- ★円市場予測 … 約4割が「円安」傾向になると予測
- ★株式市場予測 … 「やや株高傾向」が31.7%でトップ
次いで「やや株安傾向」18.9%と株高傾向にある
- ★経営上の問題点 … 「需要の停滞」が38.6%でトップ
次いで「従業員の確保難」が38.2%
- ★経営上の重視点 … 前年同様9割超が「売上高」「収益」を重視
また、「マーケティング・販路開拓」も8割超

熊本商工会議所

2016年12月

<本調査のお問い合わせ>

熊本商工会議所 商工観光振興部 情報調査課
TEL354-6688 FAX352-5202

熊本商工会議所
2017 年経済予測アンケート

I N D E X

1. 調査概要	1
2. 景 気	2
3. 産業別予測	4
4. 円 市 場	12
5. 株 式 市 場	14
6. 金 利	16
7. 経営の問題点	17
8. 経営の重視度	18

※ 巻末…「2017 年経済予測アンケート」調査用紙

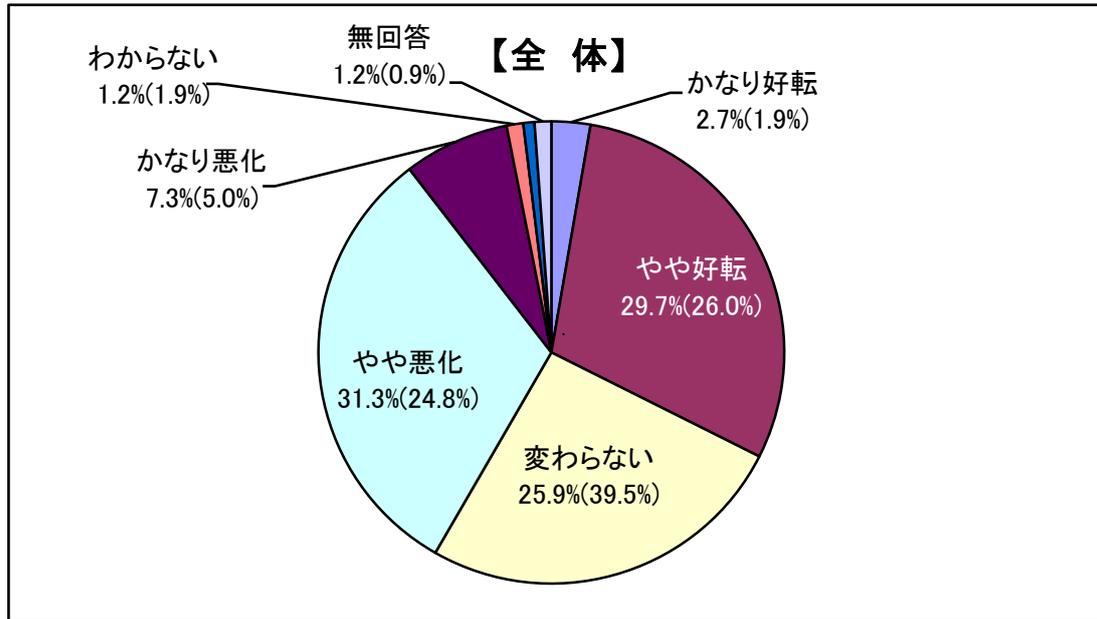
調査概要

1. 調査期間 平成 28 年 11 月 15 日(火)~11 月 22 日(火)
2. 対象者 熊本商工会議所 役員並びに議員 97 名
熊本商工会議所 経営動向調査モニター企業 398 名
(経営動向調査モニター企業は、小規模企業であるため報告書に
おいては小規模企業と表記する)
3. 配布数 495 名
4. 調査方法 調査用紙配布:メール便送付 調査票回収:FAX
5. 回答者数 259 名(有効回答率 52.3%)
6. 調査機関 熊本商工会議所

2016年11月 景気の現状

※ グラフの()内は、前年数値

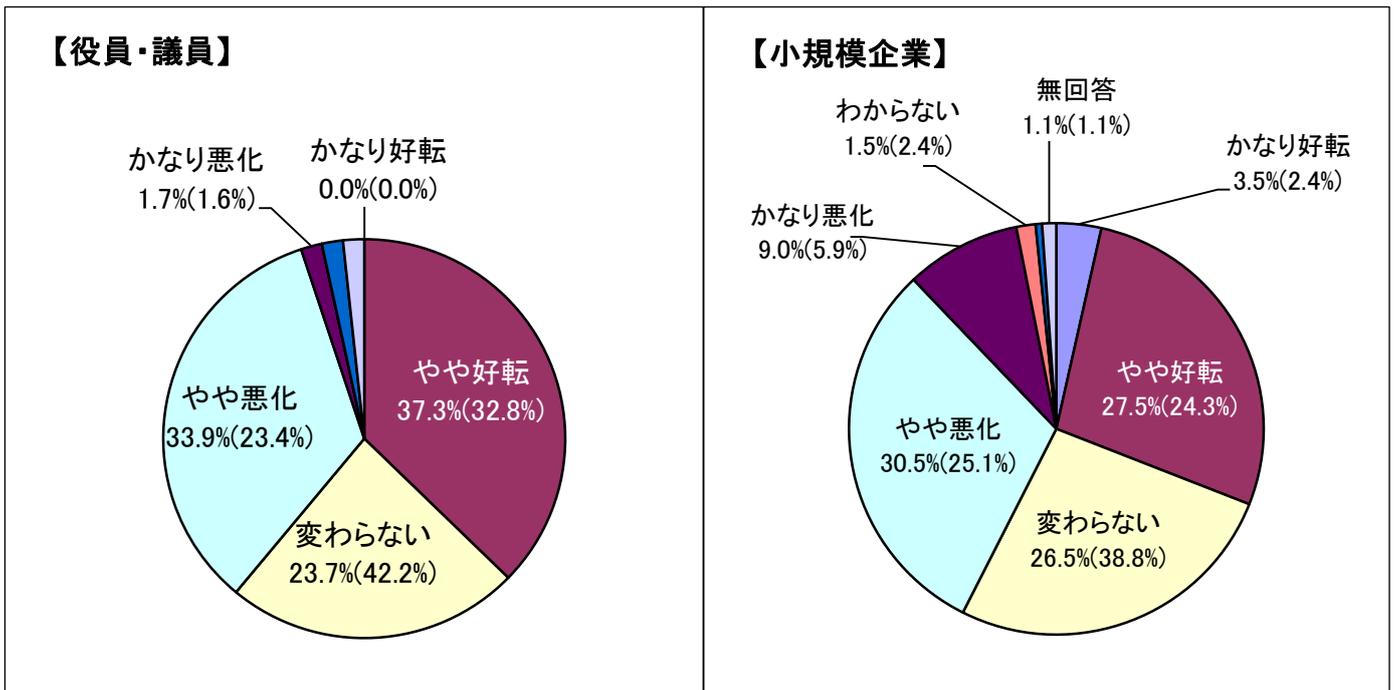
「やや悪化」が31.3%でトップ。「かなり悪化」7.3%と合わせると、約4割が悪化と回答



景気の現状(2016年11月)については「やや悪化」が31.3%でトップとなり、対前年比6.5%の増加。次いで「やや好転」で29.7%。「変わらない」は25.9%で対前年比13.6%の大幅減となった。

2016年11月 規模別の景気の現状

【役員・議員】は「やや好転」がトップ、【小規模企業】は「やや悪化」がトップ

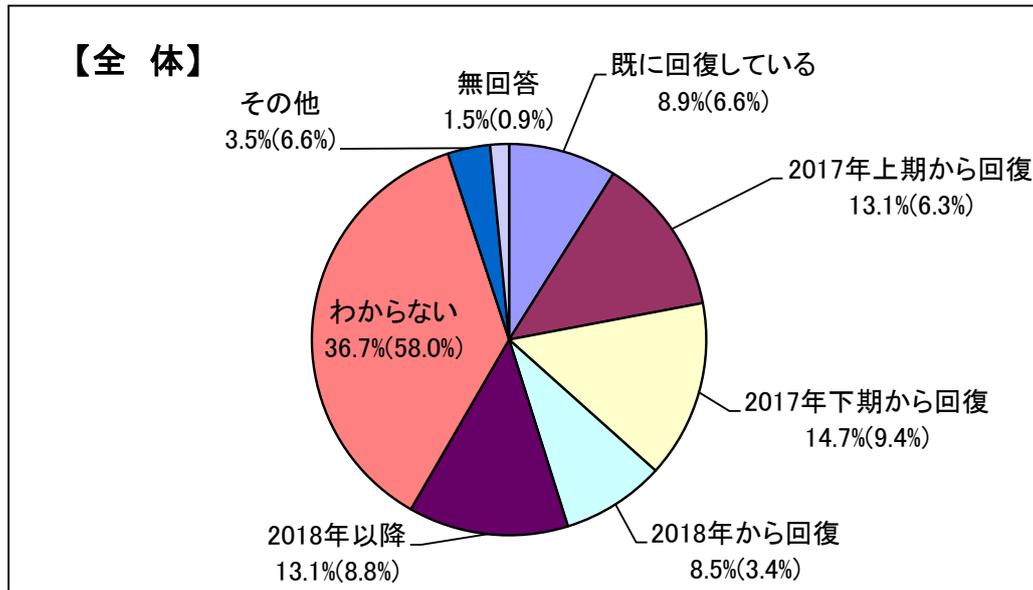


【役員・議員】では、「やや好転」が37.3%でトップだが、「やや悪化」が対前年比+10.5%と大きく増加している。【小規模企業】では、「やや悪化」と「かなり悪化」で約4割を占め、対前年比+8.5%の増加となっている。

2017年 景気の回復時期

※ グラフの()内は、前年数値

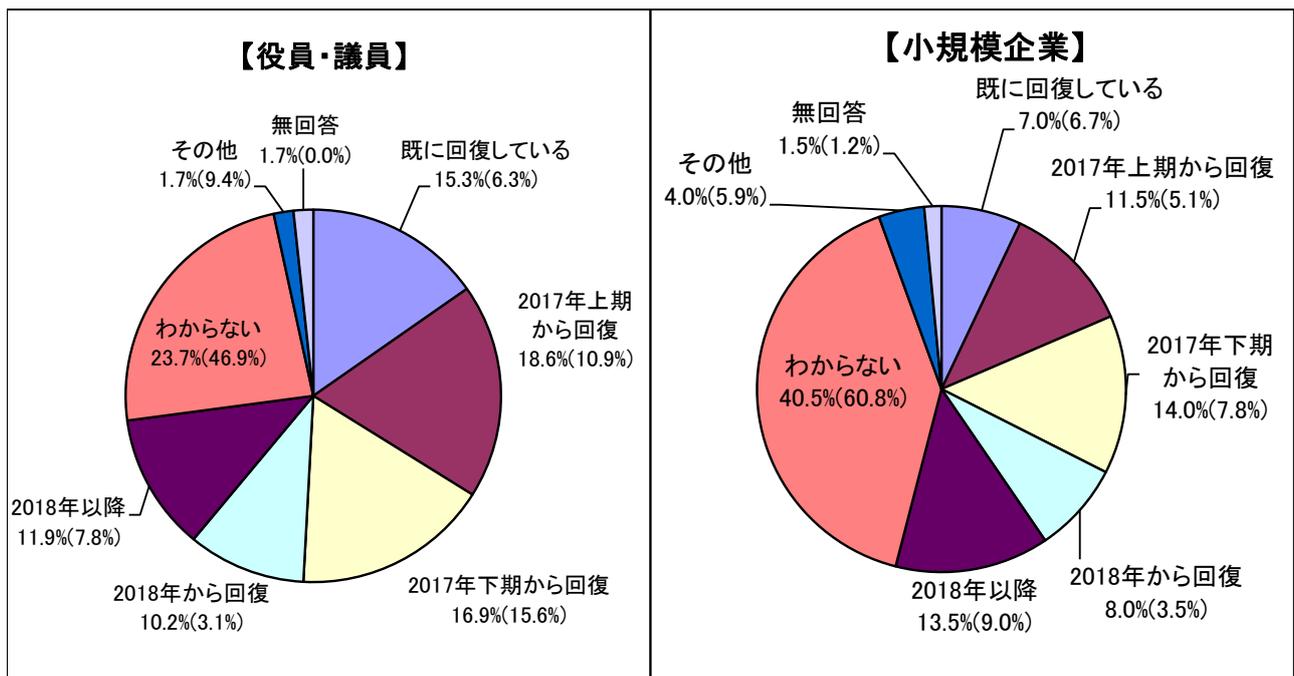
「わからない」が36.7%でトップ。具体的な時期については回答にばらつきが見られる。



「わからない」が36.7%でトップとなるも、対前年比21.3%の大幅な減少。「既に回復している」が対前年比+2.3%の8.9%、2017年上期以降の具体的な回復時期については、いずれも10%前後となっており、回答にばらつきが見られる。

2017年 規模別の景気の回復時期

【役員・議員】、【小規模企業】ともに「わからない」がトップ

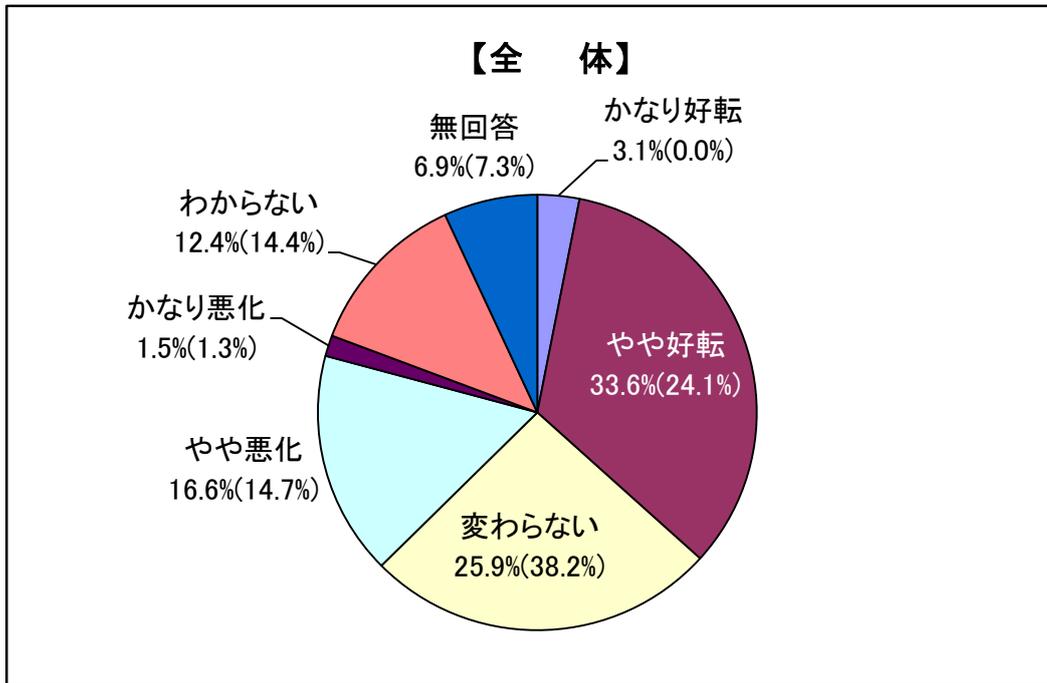


【役員・議員】、【小規模企業】ともに「わからない」がトップであったが、【役員・議員】では「既に回復している」が15.3%であるのに対し、【小規模企業】は7.0%と、回答が分かれる結果となった。

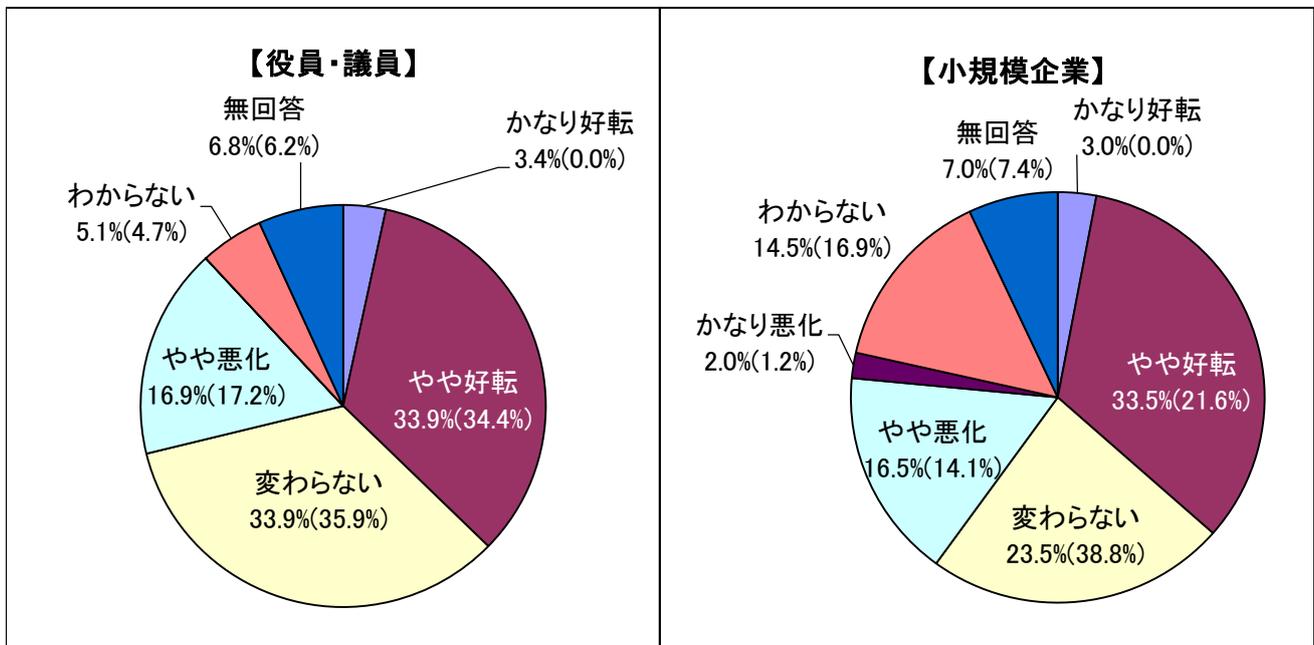
2017年 産業別動向

※ グラフの()内は、前年数値

全 業 種



2017年の全業種の動向については、「やや好転」が33.6%でトップ。対前年比+9.5%と大幅に増加した。次いで、「変わらない」が対前年比-12.3%の25.9%で2位。3位は「やや悪化」で対前年比+1.9%の16.6%であった。

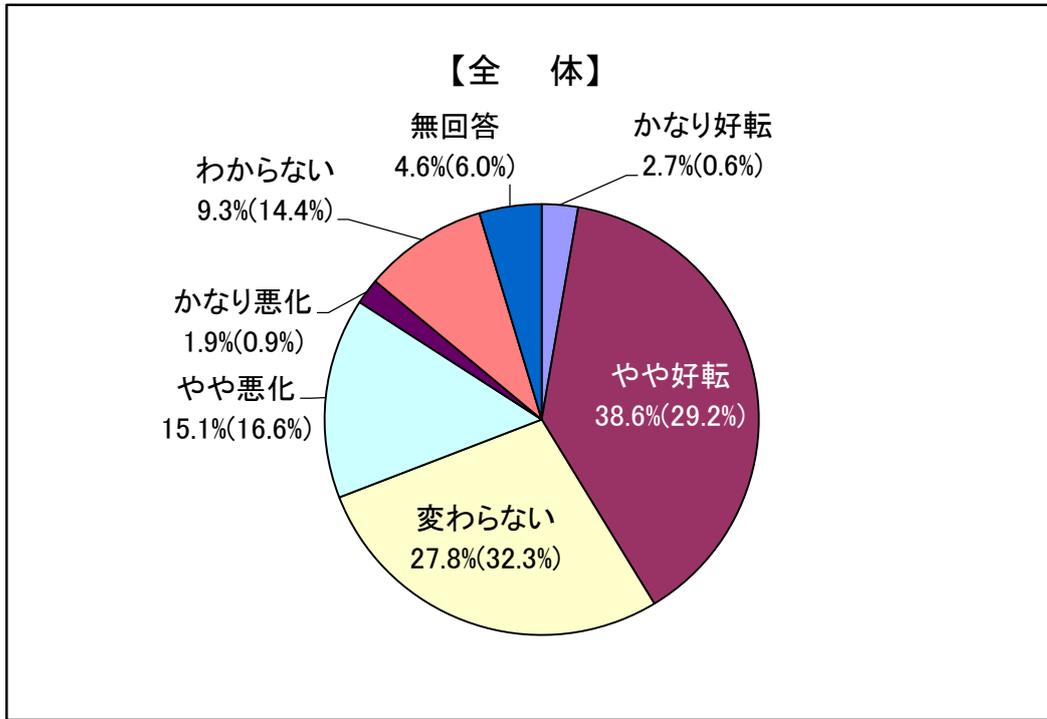


【役員・議員】、【小規模企業】ともに「やや好転」が「やや悪化」を大幅に上回る結果となった。特に【小規模企業】では、「やや好転」が33.5%、対前年比+11.9%の大幅増となった。

2017年 産業別動向

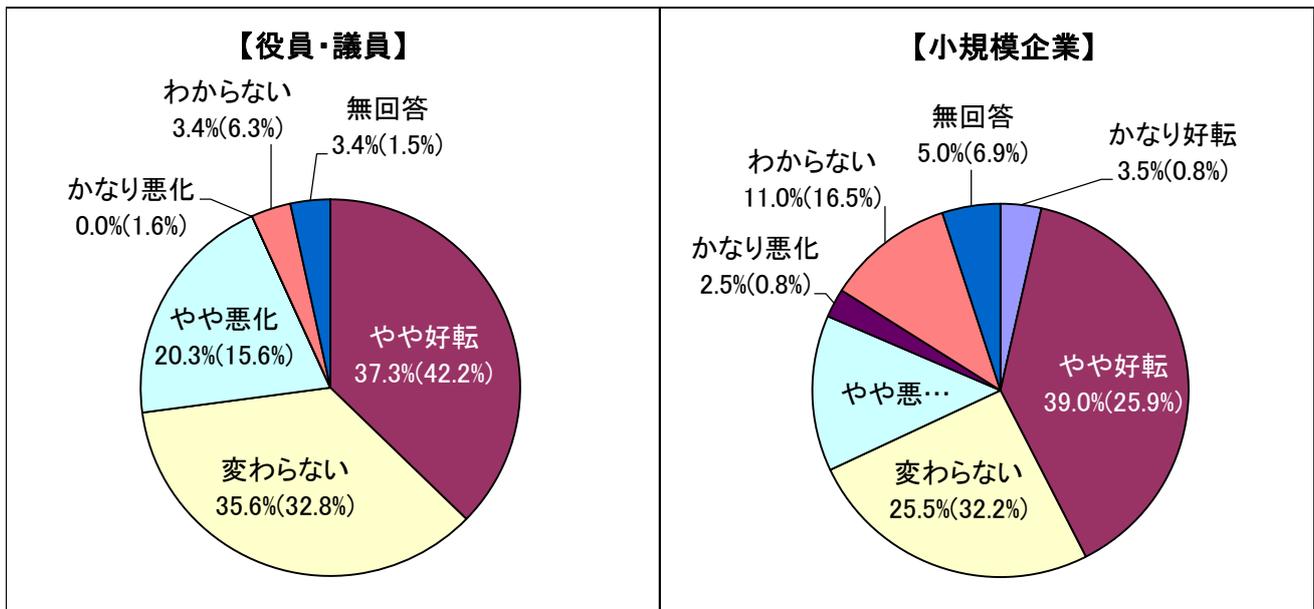
※ グラフの()内は、前年数値

製造業



2017年の製造業の動向については、「やや好転」が38.6%でトップ。次いで「変わらない」27.8%、「やや悪化」15.1%という結果となった。

前年と比較すると、「やや好転」+9.4%、「やや悪化」-1.5%と好転傾向を示す結果となった。

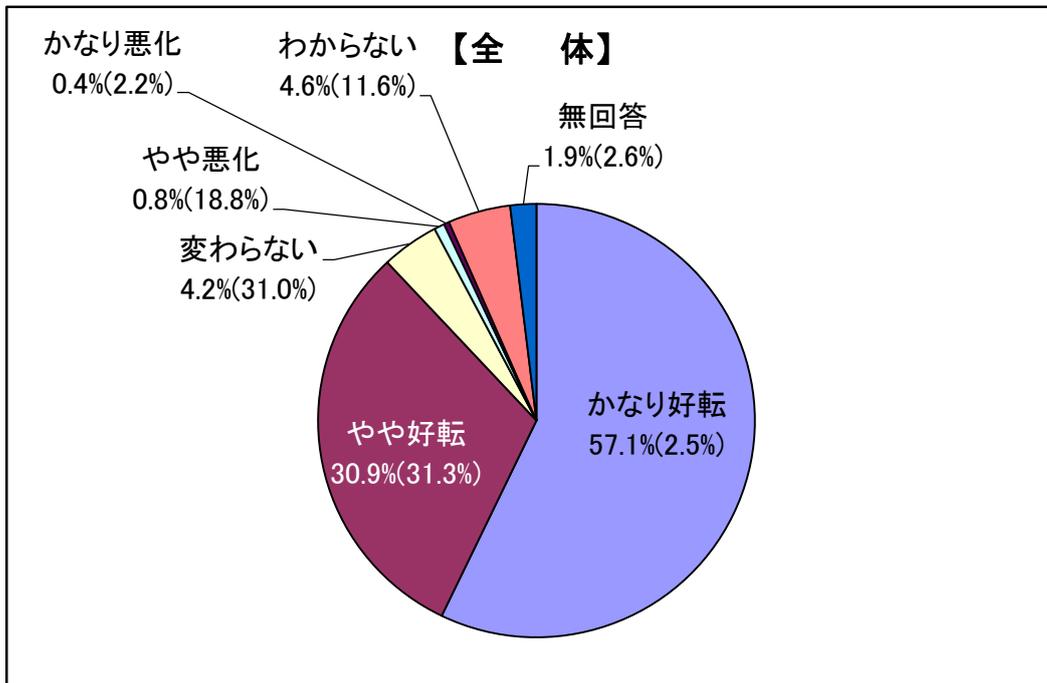


【役員・議員】、【小規模企業】ともに「やや好転」がトップ。【役員・議員】は「やや好転」が対前年比-4.9%、「やや悪化」が対前年比+4.7%と悪化傾向にあるが、【小規模企業】は「やや好転」が対前年比+13.1%と大幅に増加し、「やや悪化」も対前年比-3.4%という結果になった。

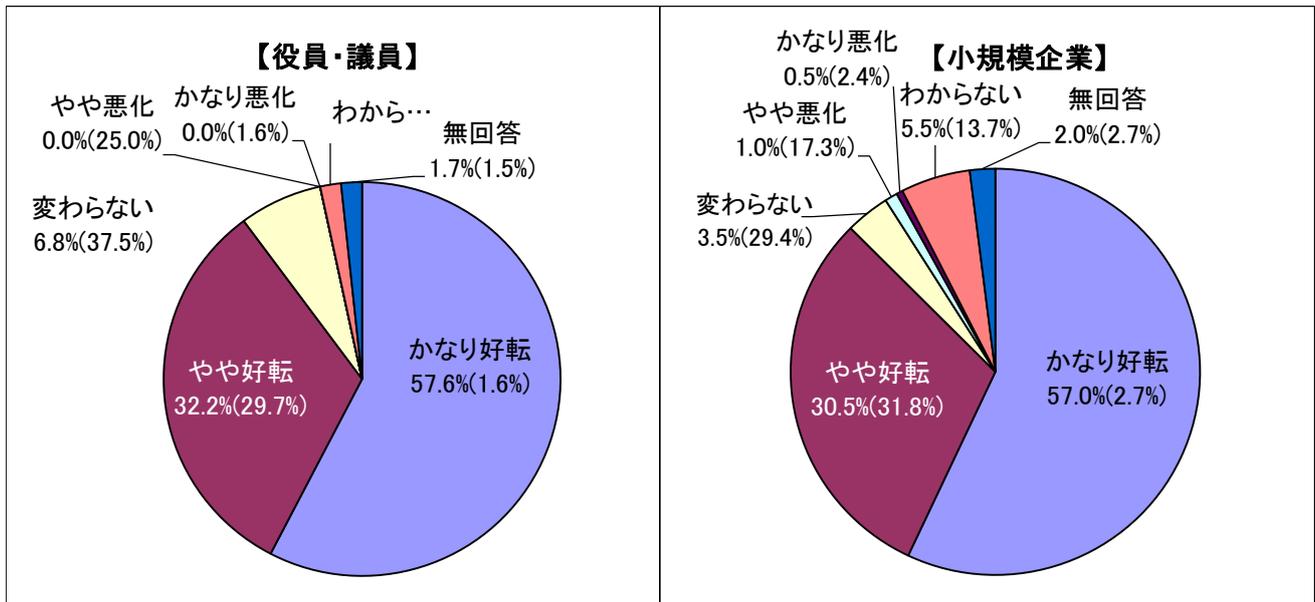
2017年 産業別動向

※ グラフの()内は、前年数値

建設業



2017年の建設業の動向については、「かなり好転」が57.1%、「やや好転」30.9%と合わせると9割近くの事業者が好転すると回答した。平成28年熊本地震の復旧工事等による需要増が2017年も継続するという見通しからこのような結果になったと推測される。

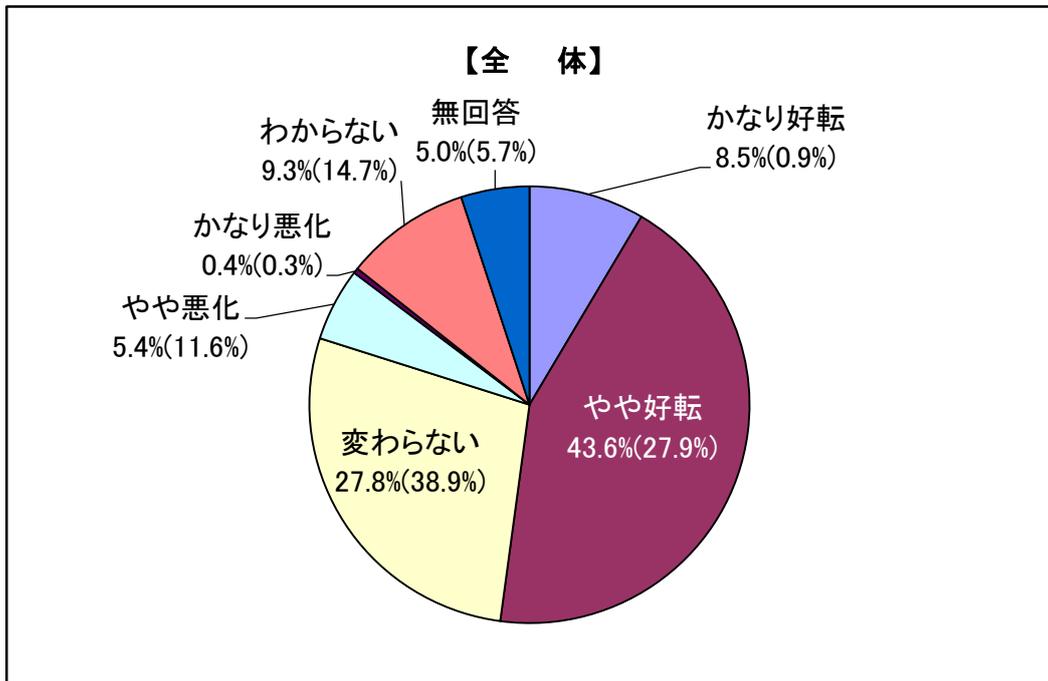


【役員・議員】、【小規模企業】ともに「かなり好転」と回答した事業者が対前年比+50%以上と大幅に増加している。特に【役員・議員】で「やや悪化」「かなり悪化」の回答は0という結果となった。

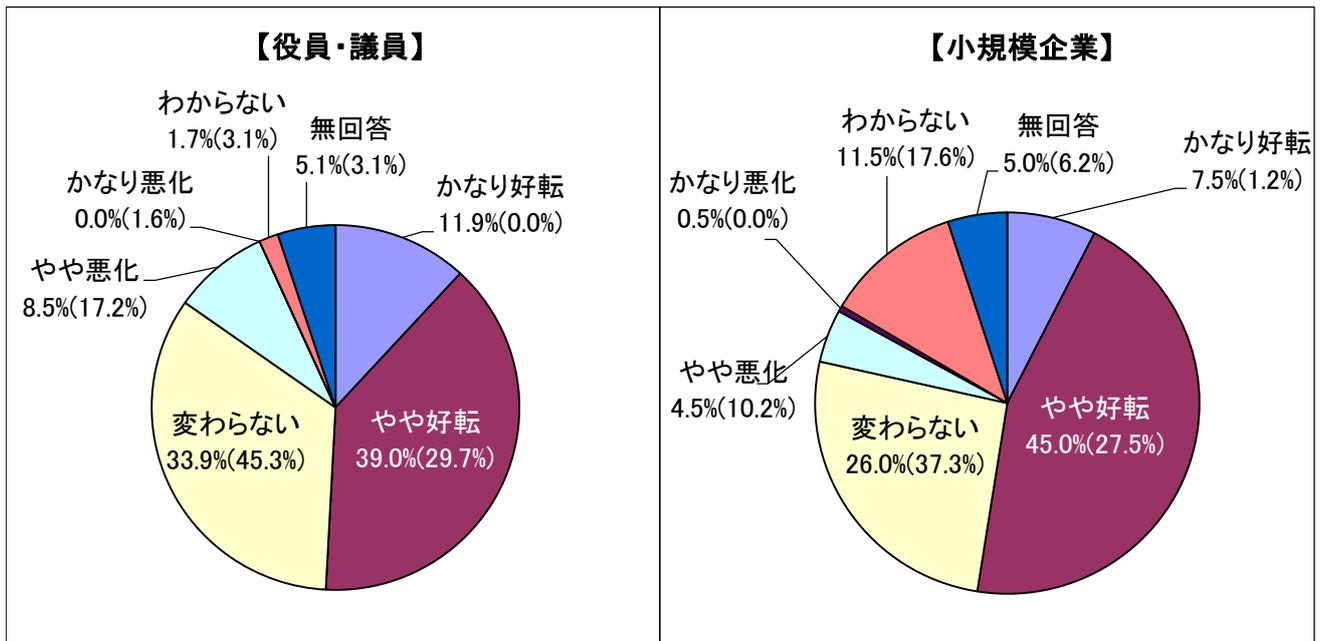
2017年 産業別動向

※ グラフの()内は、前年数値

運輸・通信業



2017年の運輸・通信業の動向については、「やや好転」が対前年比+15.7%の43.6%でトップとなった。また、「かなり好転」も対前年比+7.6%の8.5%と、半数以上の事業者が好転傾向であると回答した。

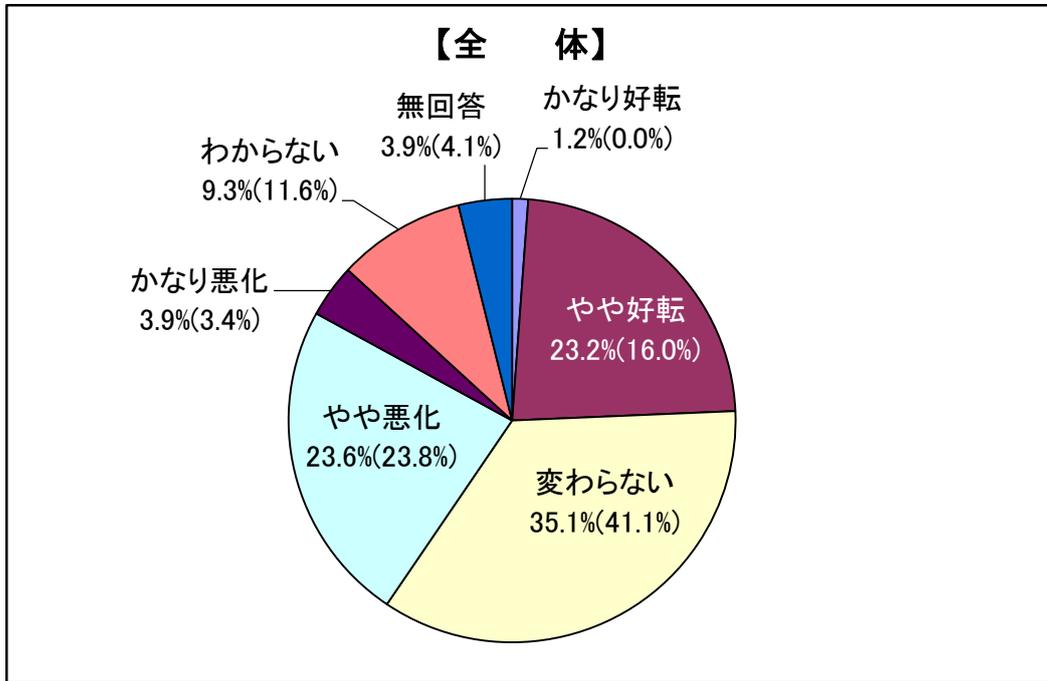


【役員・議員】、【小規模企業】ともに「やや好転」がそれぞれ39.0%(対前年比+9.3%)、45.0%(対前年比+17.5%)でトップとなった。前年とはともに「変わらない」がトップであったが、今回は明るい見通しとなっている。

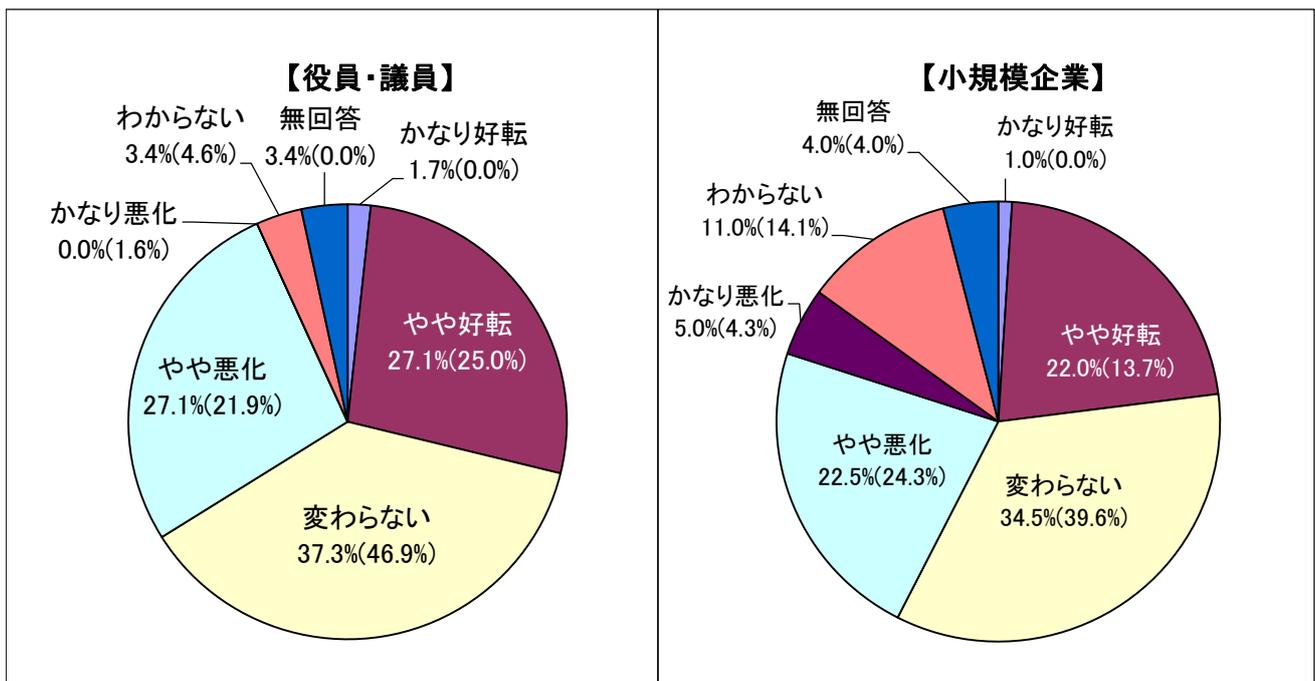
2017年 産業別動向

※ グラフの()内は、前年数値

卸売・小売業



2017年の卸売・小売業の動向については、「変わらない」が35.1%(対前年比-6.0%)で前年に引き続きトップ、次いで「やや悪化」23.6%(対前年比-0.2%)、「やや好転」23.2%(対前年比+7.2%)となった。前年と同じ順位であったものの、「やや好転」と回答した事業者の増加幅が大きくなっている。

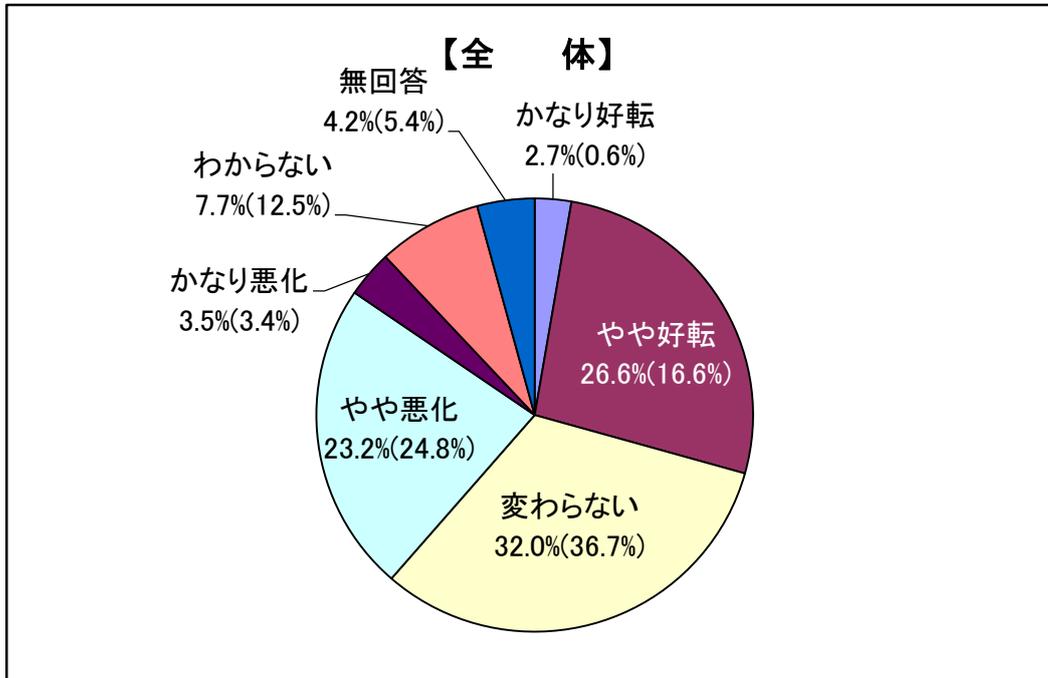


【役員・議員】、【小規模企業】ともに「変わらない」がそれぞれ37.3%、34.5%でトップとなった。また、【小規模企業】では「やや好転」が対前年比+8.3%、「やや悪化」が対前年比-1.8%と、好転傾向の見通しとなっている。

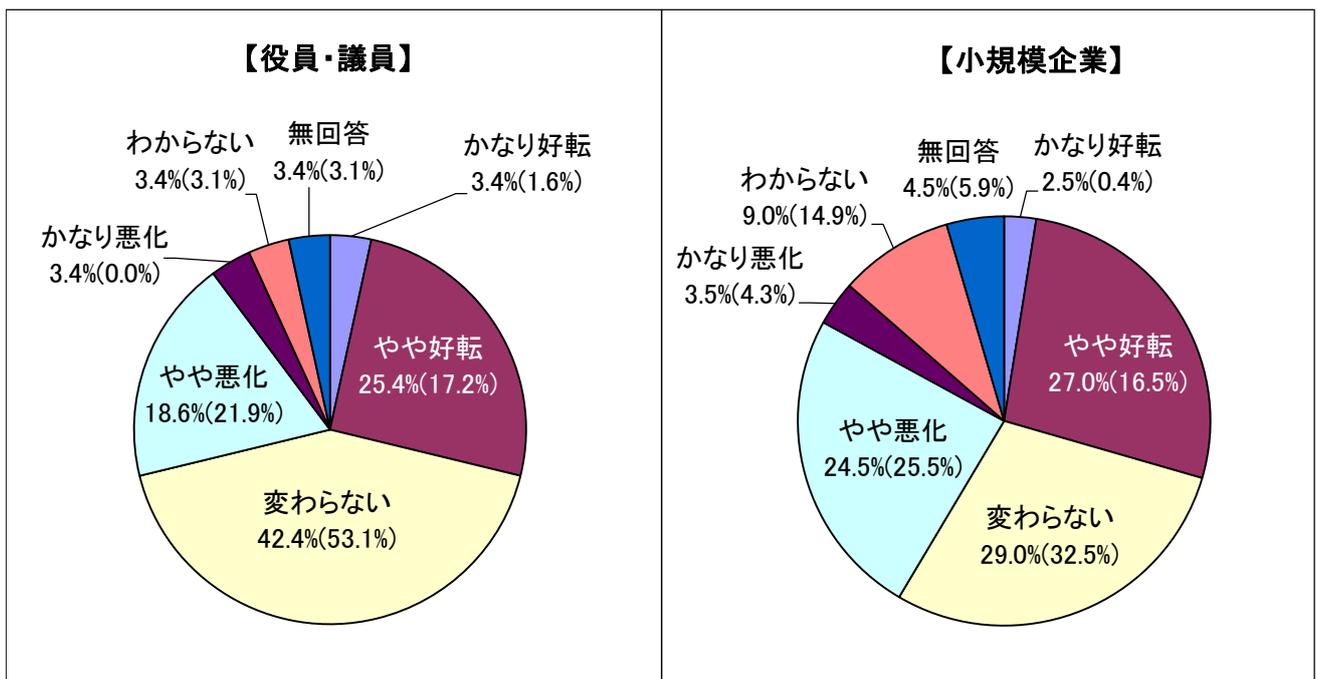
2017年 産業別動向

※ グラフの()内は、前年数値

飲食業



2017年の飲食業の動向については、「変わらない」が32.0%(対前年比+4.7%)で前年に引き続きトップとなり、「やや悪化」が23.2%(対前年比-1.6%)、「やや好転」が26.6%(対前年比+10.0%)となった。「やや好転」が大幅増加、「やや悪化」がわずかに減少となっており、好転傾向の予測となった。



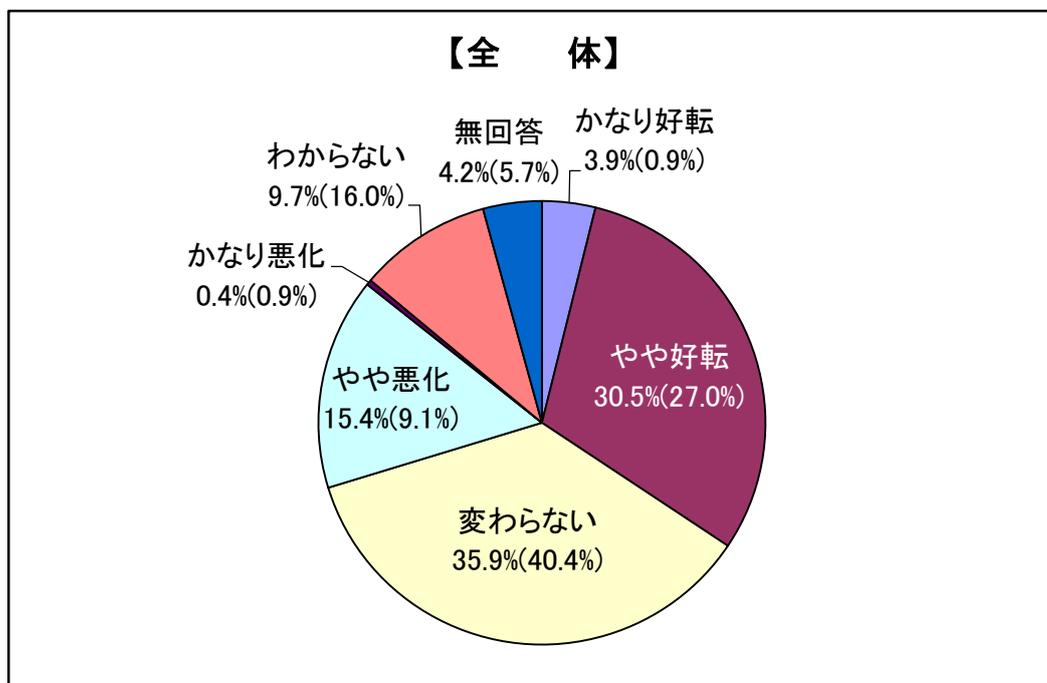
【役員議員】【小規模企業】ともに「変わらない」がトップ。また、「やや好転」と回答した割合は【役員・議員】で25.4%(対前年比+8.2%)、【小規模企業】で27.0%(対前年比+10.5%)と、企業規模を問わず、好転傾向

2017年 産業別動向

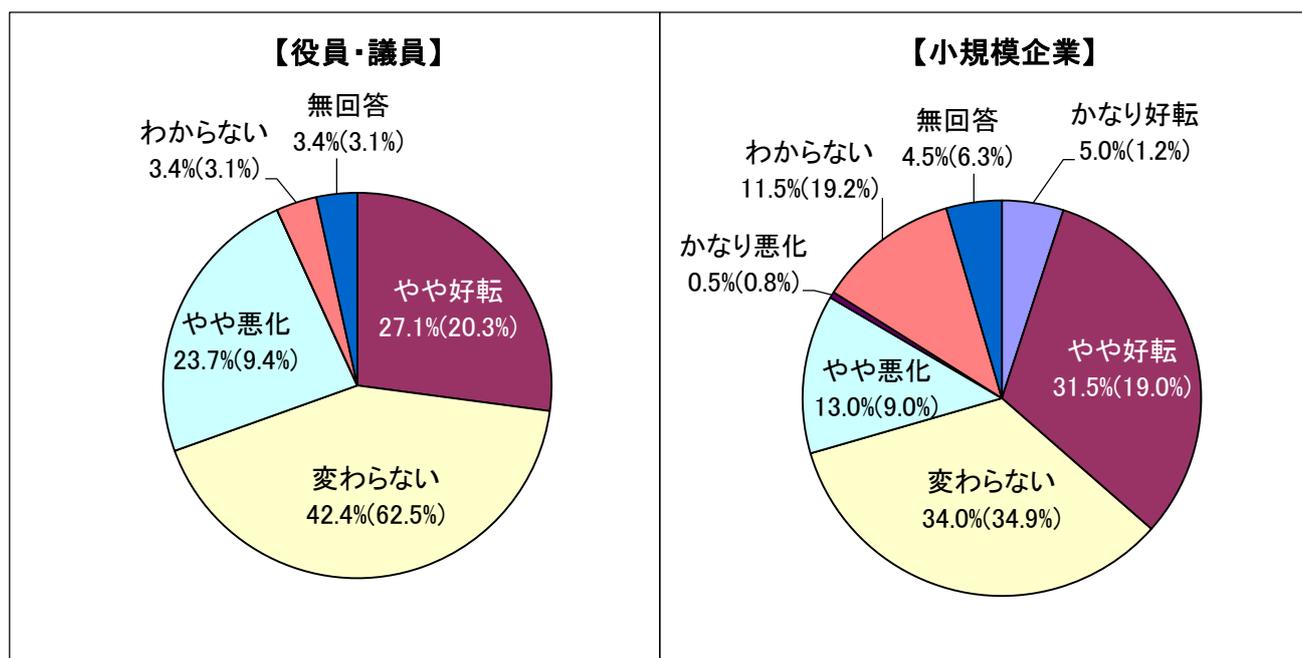
にあるという結果になった。

※ グラフの()内は、前年数値

金融・保険業



2017年の金融・保険業の動向については、「変わらない」が35.9%(対前年比-4.5%)で前年に引き続きトップとなり、「やや好転」が30.5%(対前年比+3.5%)、「やや悪化」が15.4%(対前年比+6.3%)となった。



【役員・議員】では「やや悪化」が23.7%(対前年比+14.3%)、【小規模企業】では、「やや好転」が31.5%(対前年比12.5%)と事業規模で大きく差が出る結果となった。

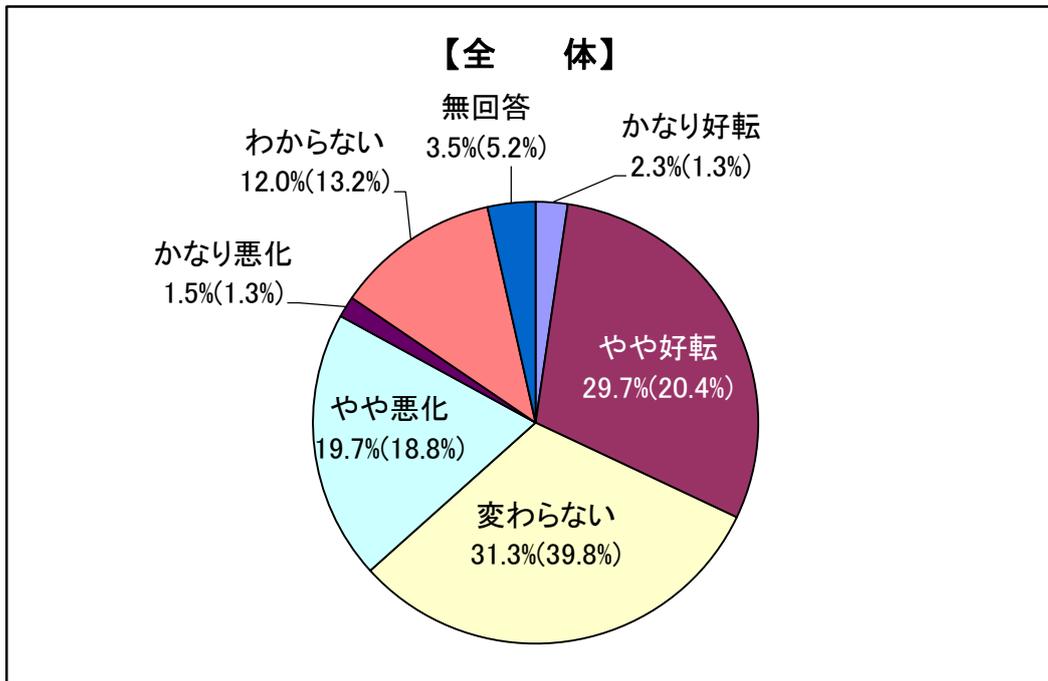
2017年 産業別動向

※ グラフの()内は、前年数値

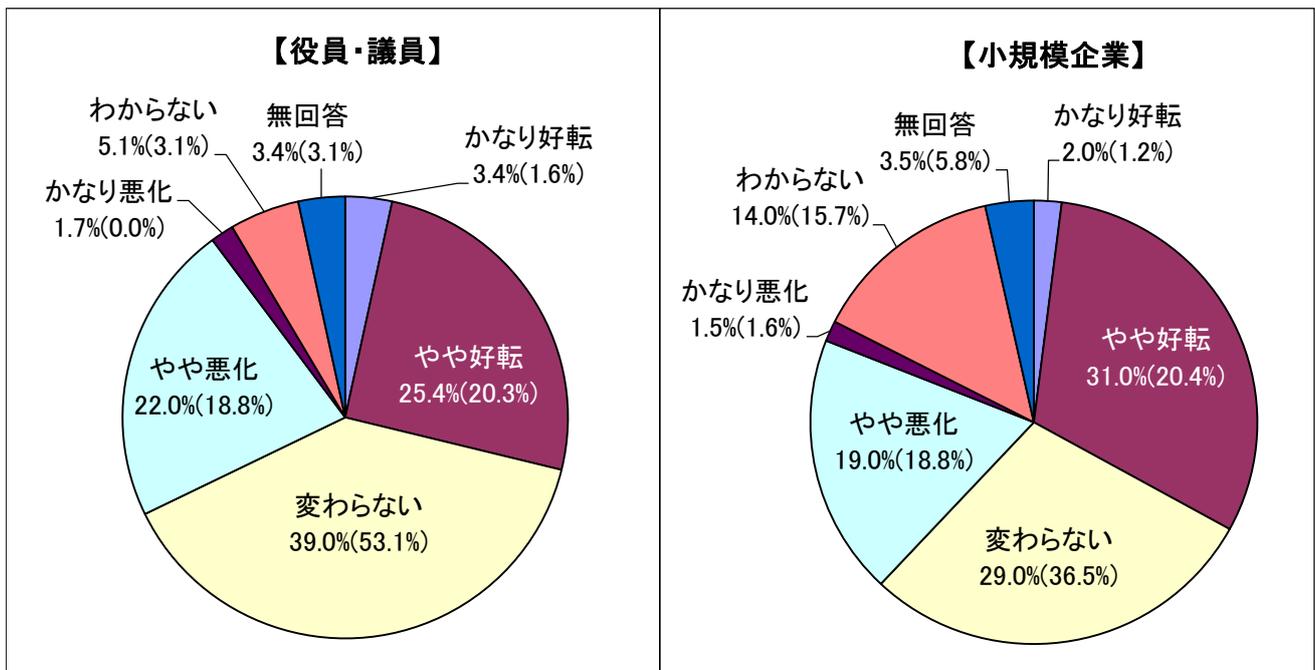
2017年 産業別動向

※ グラフの()内は、前年数値

サービス業



2017年のサービス業の動向については、「変わらない」が31.3%(対前年比-8.5%)で前年に引き続きトップとなった。次いで「やや好転」が29.7%(対前年比+9.3%)となり、前年と比較して増加傾向となった。

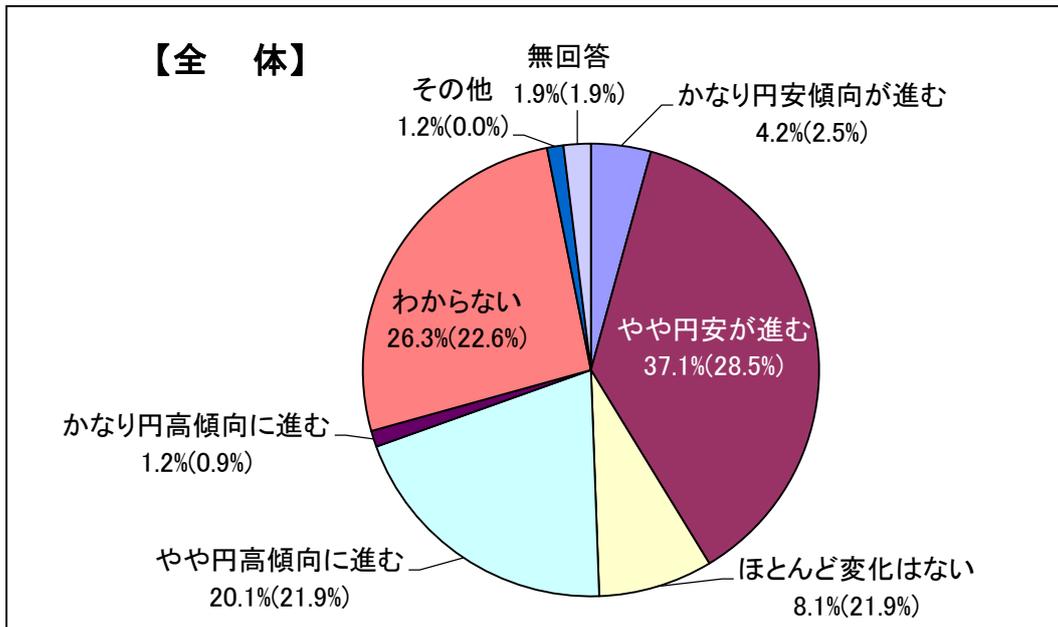


【役員・議員】は「変わらない」が39.0%(対前年比-14.1%)、【小規模企業】は「やや好転」が31.0%(対前年比+10.6%)と、それぞれトップとなった。

円市場予測

※ グラフの()内は、前年数値

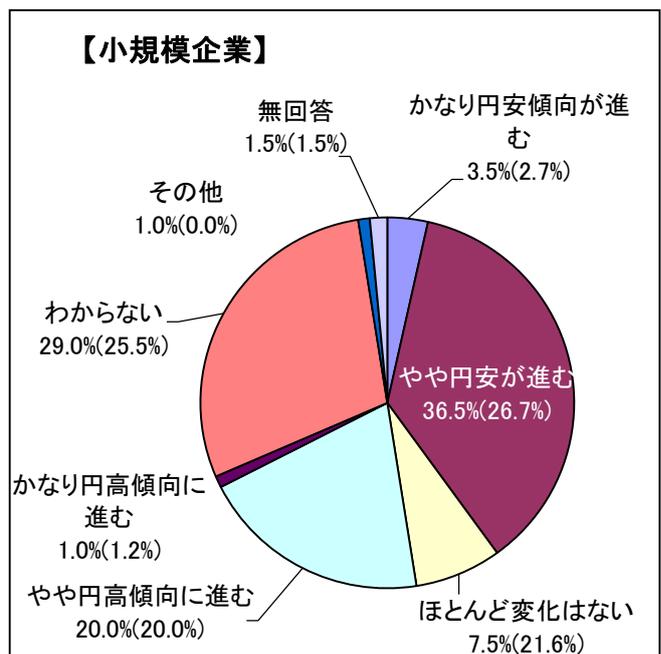
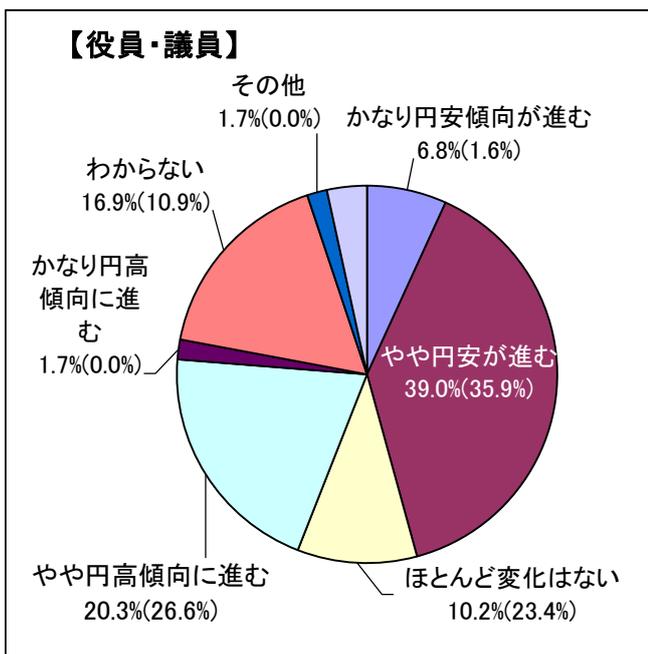
「やや円安」が37.1%、「やや円高」が20.1%で、約4割が「円安」と予測



円市場の推移予測は、「やや円安」が37.1%(対前年比+8.6%)、「やや円高」が20.1%(対前年比-1.8%)となった。「かなり円安」と「やや円安」を合わせるとおよそ4割、「かなり円高」と「やや円高」を合わせるとおよそ2割という結果となった。

規模別の円市場予測

【役員・議員】、【小規模企業】ともに「やや円安」がトップ

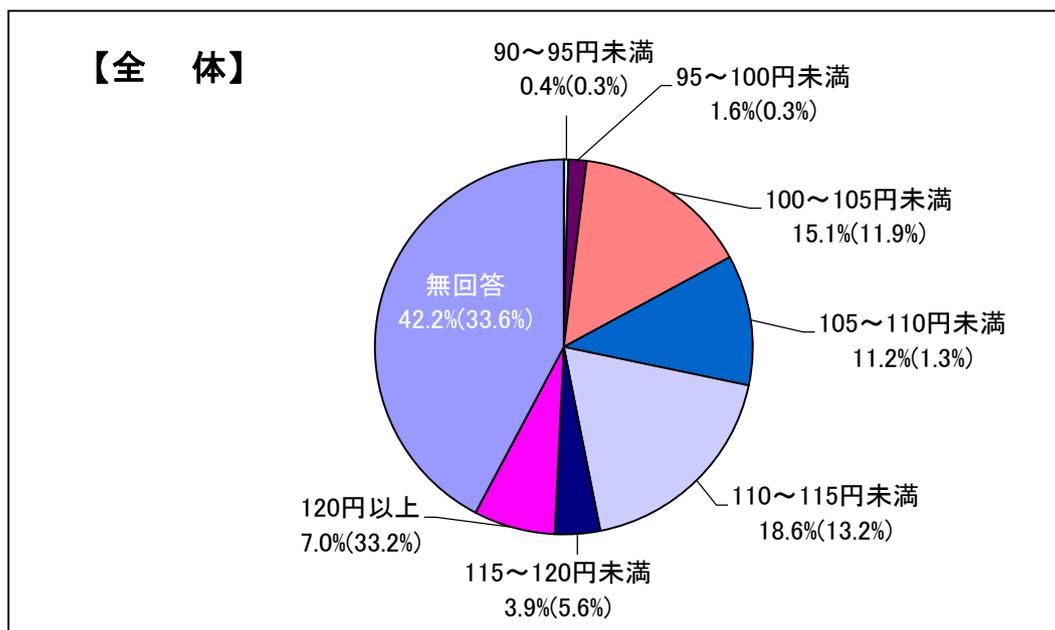


【役員・議員】、【小規模企業】ともに「やや円安」がそれぞれ39.0%(対前年比+3.1%)、36.5%(対前年比+9.8%)でトップとなり、次いで「やや円高」がそれぞれ20.3%(対前年比-6.3%)、20.0%(対前年比0%)となり、企業規模に関わらず、やや円安に進むと考える事業者が多い結果となった。

望ましい為替水準

※ グラフの()内は、前年数値

「110～115円未満」が18.6%でトップ、次いで「100～105円未満」で15.1%

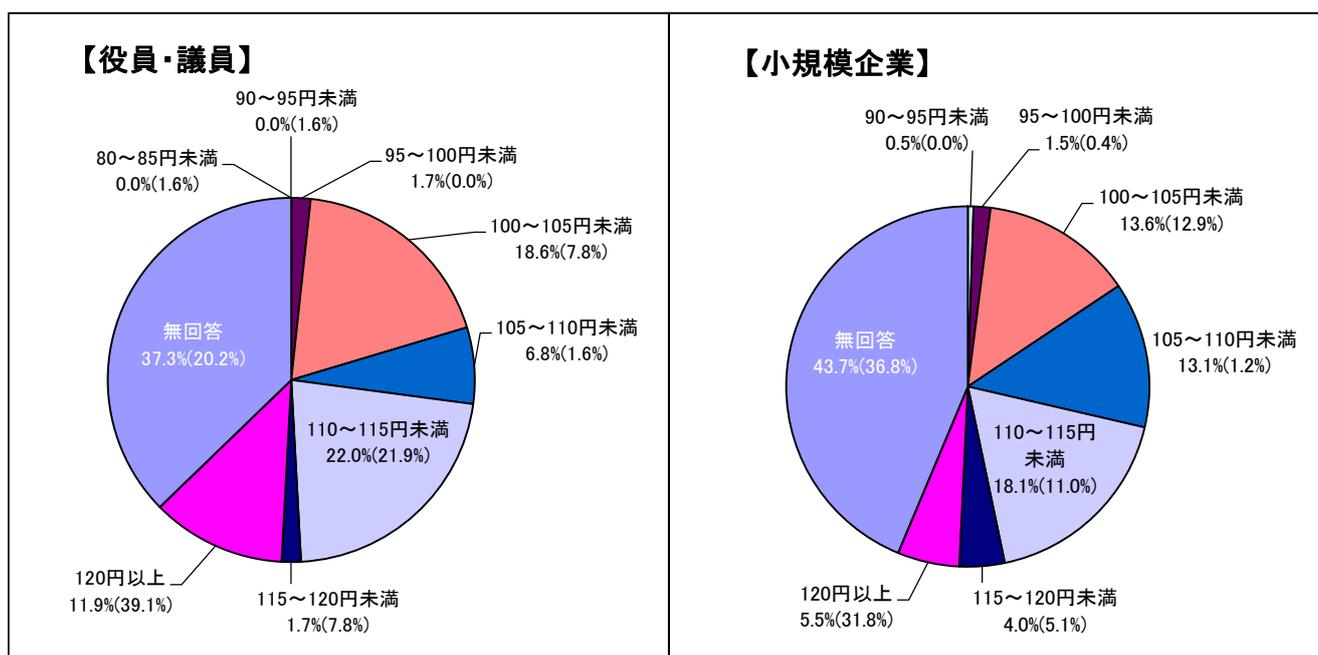


調査票記載の参考為替 東京外国為替 円(1ドル=円) (11月10日)
 [始値] 105.81 [高値] 105.96 [安値] 104.97 [終値] 105.63

企業にとって望ましい為替水準は、「110～115円未満」が18.6%(対前年比+5.4%)でトップ、次いで「100～105円未満」が15.1%となった。また「120円以上」が7.0%(対前年比-26.2%)と大幅に減少した。

規模別の望ましい為替水準

【役員・議員】、【小規模企業】ともに「110～115円未満」がトップ

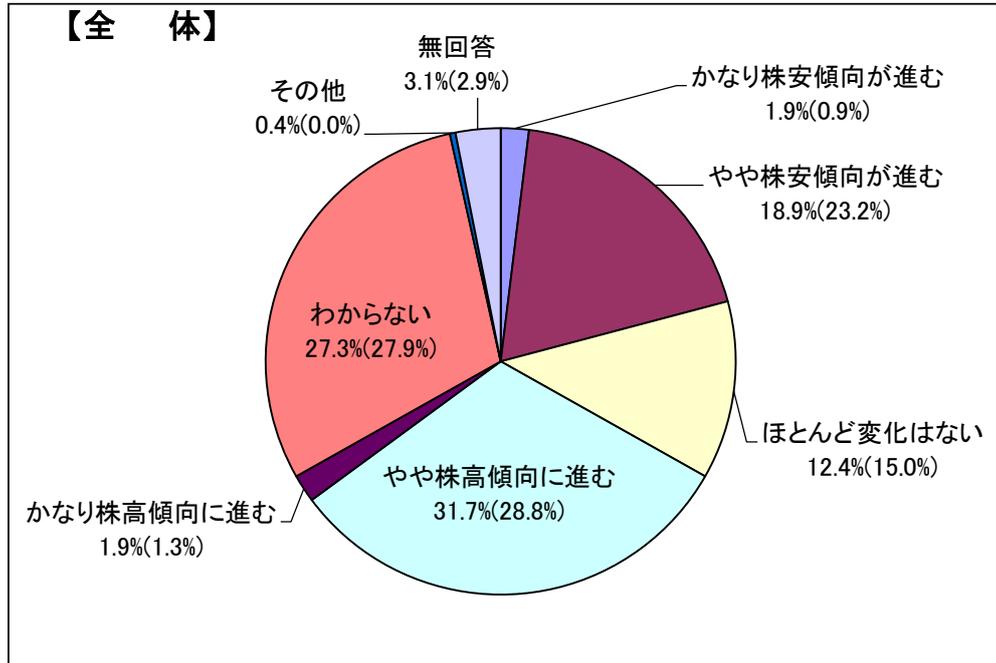


【役員・議員】、【小規模企業】どちらにおいても前年より円高傾向を望んでいるという結果となった。

株式市場予測

※ グラフの()内は、前年数値

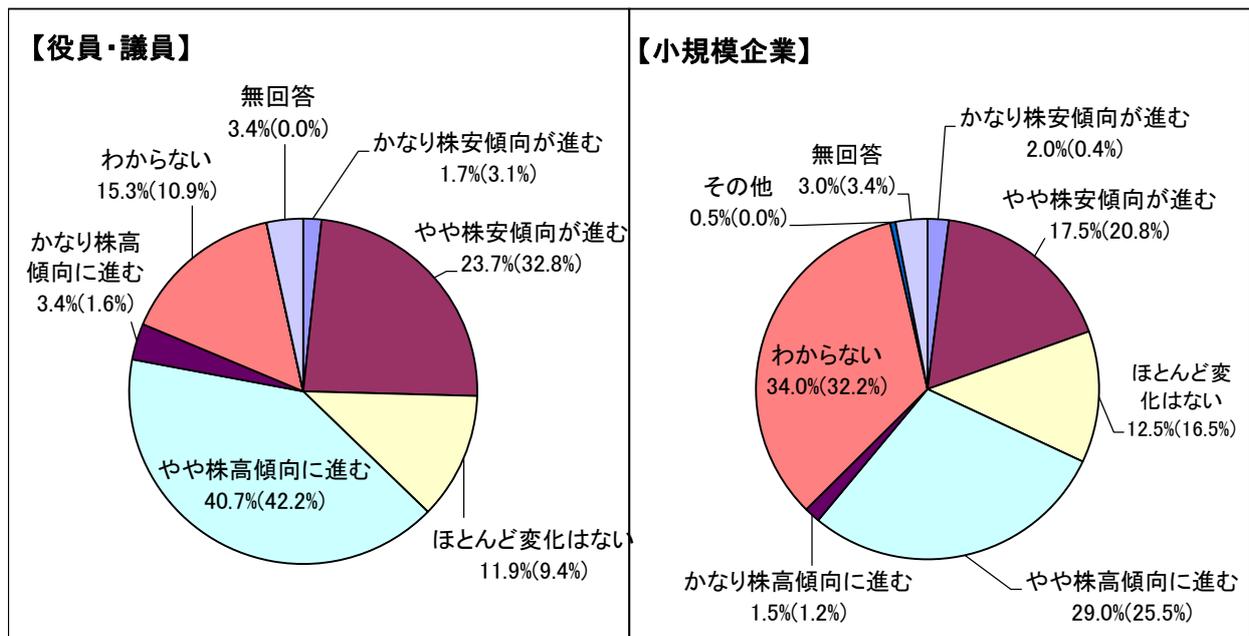
「やや株高傾向」31.7%、「やや株安傾向」18.9%と株高傾向が増加



株式市場の予測は、昨年に引き続き「やや株高」が31.7%でトップとなり、対前年比+2.9%とわずかながら増加している。その一方で「やや株安」は対前年比-4.3%と減少しており、前年と比較してより株高傾向に進むという結果となった。

規模別の株式市場予測

【役員・議員】、【小規模企業】ともに「やや株高傾向に進む」がトップ

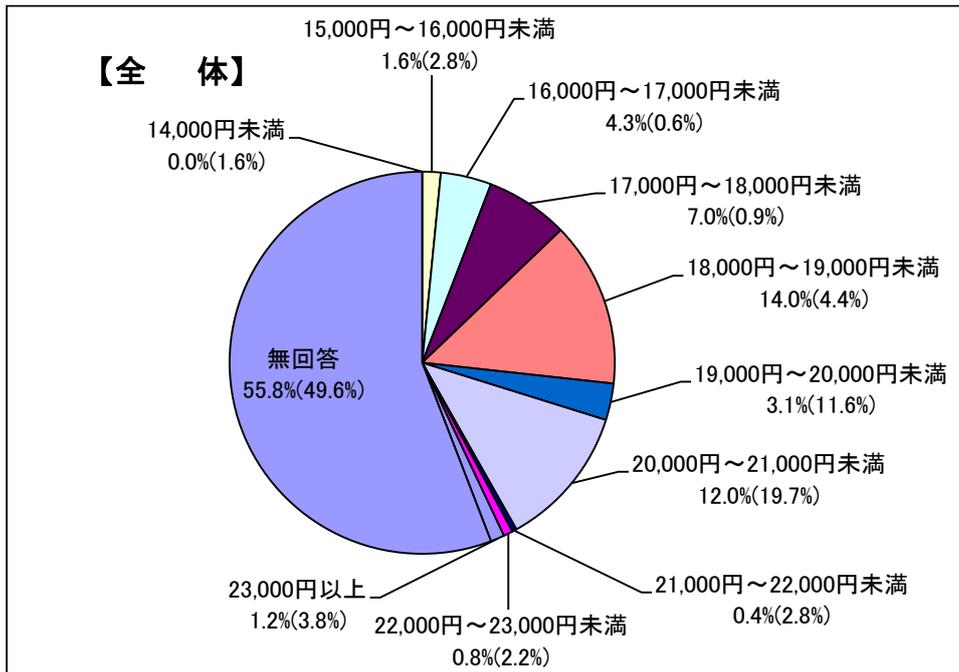


【役員・議員】、【小規模企業】ともに「やや株高傾向」が「やや株安傾向」を上回り、特に【小規模企業】においては、「やや株安傾向」が対前年比-3.3%であるのに対し、「やや株高傾向」は対前年比+3.5%となり、より株高傾向になるという結果となった。

望ましい株価水準

※ グラフの()内は、前年数値

「18,000円～19,000円未満」が14.0%でトップ

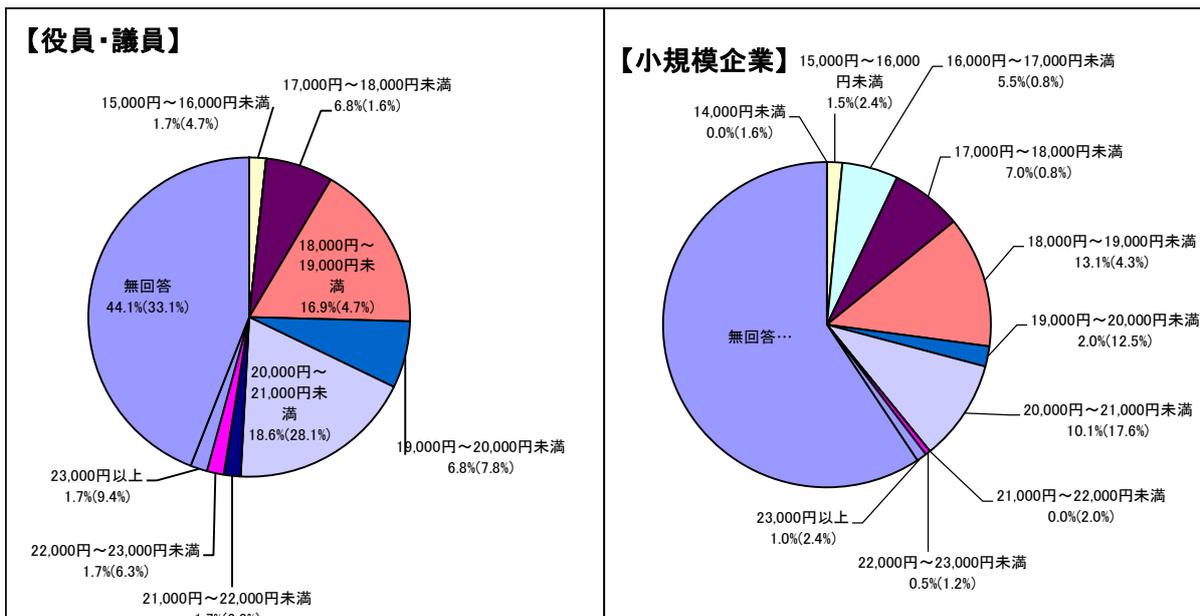


調査票記載の参考株価 国内株式 日経平均(円) (11月10日)
 [始値] 16,562.86 [高値] 17,393.82 [安値] 16,560.66 [終値] 17,344.42

望ましい株価水準は、「18,000円～19,000円未満」が14.0%(対前年比+9.6%)でトップ、次いで「20,000円～21,000円未満」が12.0%(対前年比-7.7%)となり、前年と比較して株安傾向を望む声が多い結果となった。

規模別の望ましい株価水準

【役員・議員】「20,000円～21,000円未満」、【小規模企業】「18,000円～19,000円未満」がトップ

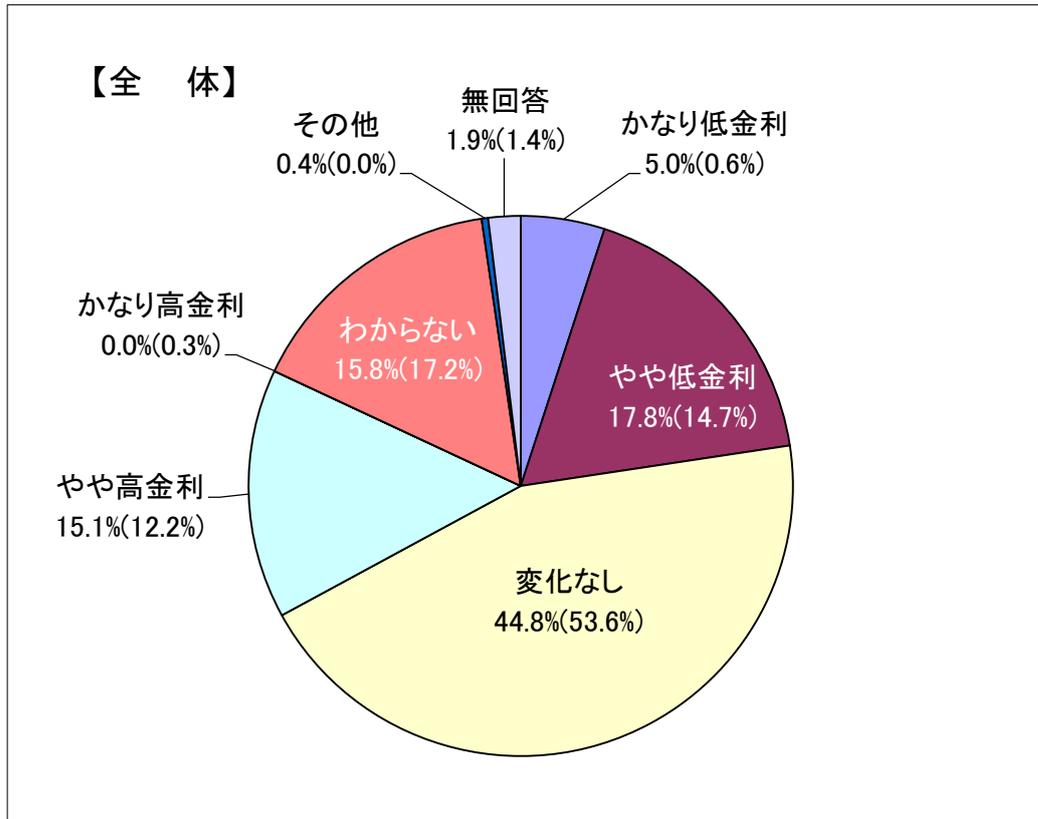


【役員・議員】は「20,000円～21,000円未満」が18.6%(対前年比-9.5%)、【小規模企業】は「18,000円～19,000円未満」が13.1%(対前年比+8.8%)がトップとなった。「20,000円以上」は、【役員・議員】対前年比-26.4%で23.7%、【小規模企業】が対前年比-11.6%で11.6%と、前年と比較して株安を望む傾向となった。

金利予測

※ グラフの()内は、前年数値

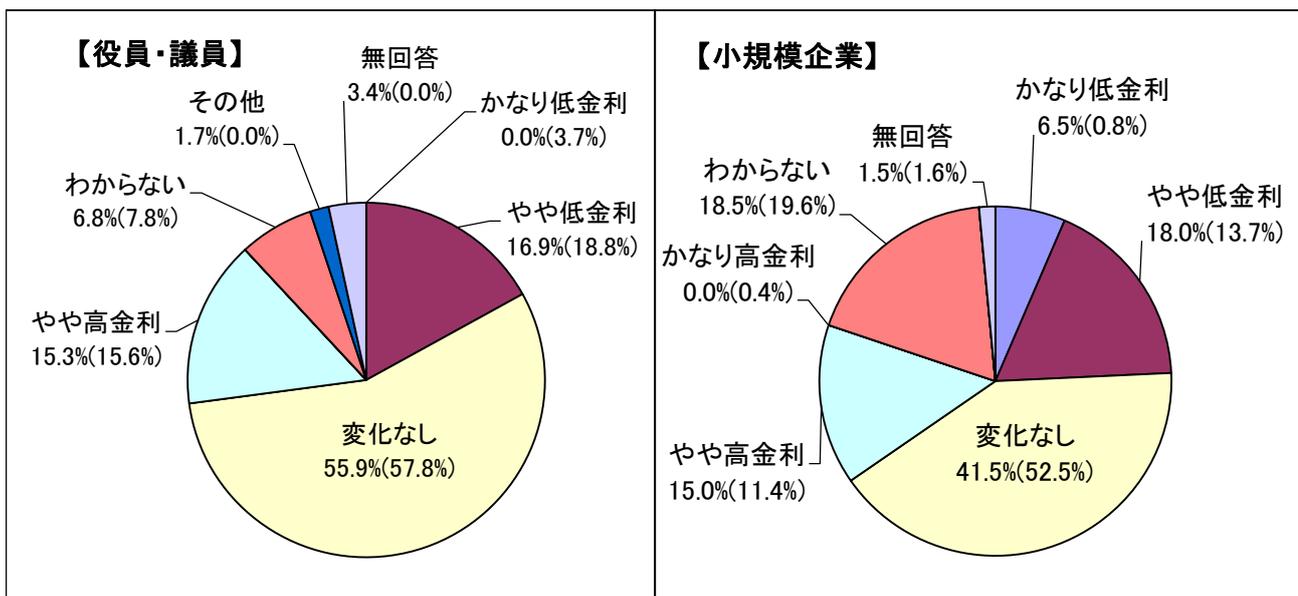
「変化なし」が44.8%でトップ、次いで「やや低金利」で17.8%



金利の推移予測では、「変化なし」が44.8%(対前年比-8.8%)でトップ、次いで「やや低金利」が17.8%(対前年比+3.1%)、「やや高金利」が15.1%(対前年比+2.9%)と前年と同様の順位であった。

規模別の金利予測

【役員・議員】、【小規模企業】ともに「変化なし」がトップ

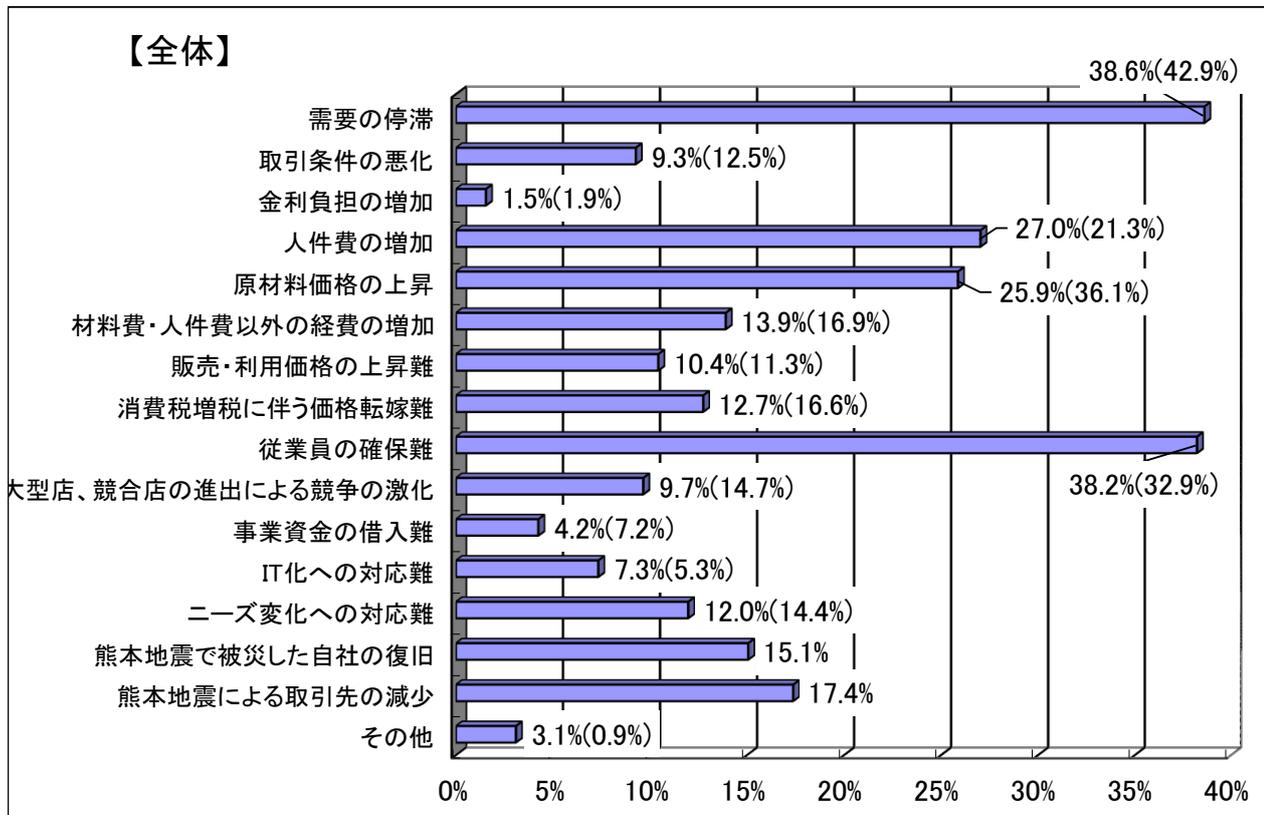


【役員・議員】、【小規模企業】ともに「変化なし」がトップで、それぞれ55.9%(対前年比-1.9%)、41.5%(対前年比-11.0%)。「変化なし」が大きく減少した【小規模企業】では、「やや低金利」、「やや高金利」それぞれ増加し、意見が分かれる結果となった。

経営上の問題点

(複数回答) ※ グラフの()内は、前年数値

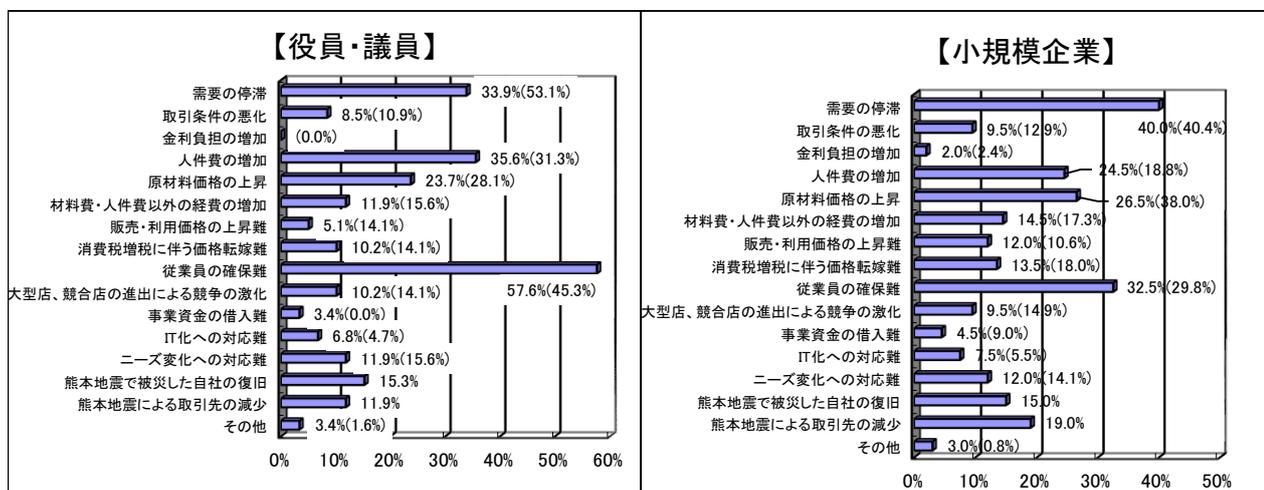
トップは「需要の停滞」、次いで「従業員の確保難」



経営上の問題点として最も多かったのは、昨年同様「需要の停滞」で38.6%(対前年比-4.3%)、次いで「従業員の確保難」で38.2%(対前年比+5.3%)であった。また、「熊本地震で被災した自社の復旧」「熊本地震による取引先の減少」といった震災による影響も一定数見られる。

規模別の経営上の問題点

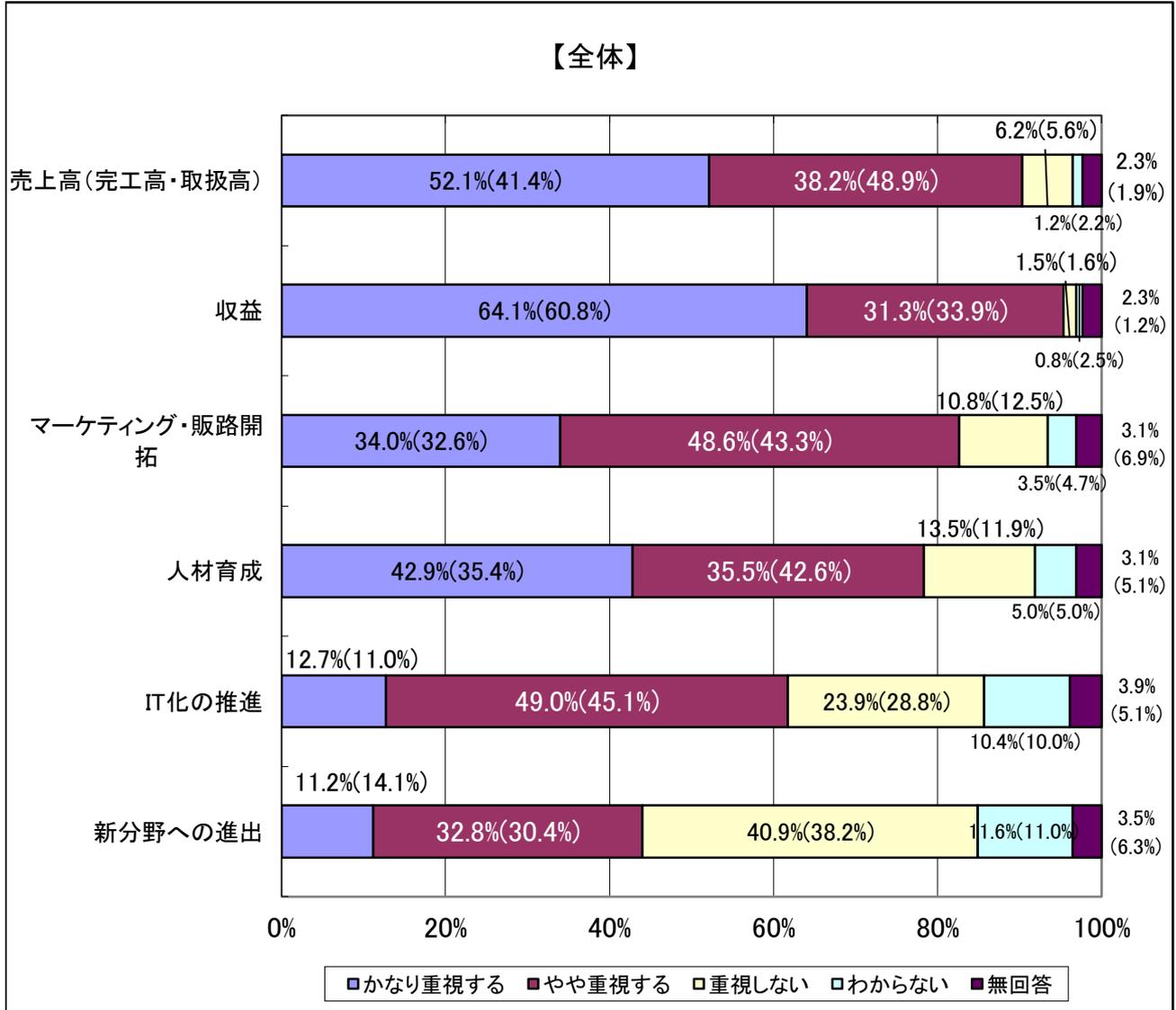
【役員・議員】は「従業員の確保難」、【小規模企業】は「需要の停滞」がトップ



【役員・議員】は「従業員の確保難」が57.6%(対前年比+12.3%)、【小規模企業】は「需要の停滞」が40.0%(対前年比-0.4%)でトップとなった。また、熊本地震関係に着目すると、「熊本地震で被災した自社の復旧」についてはほとんど差はないが、「熊本地震による取引先の減少」については【小規模企業】が7.1%上回り、震災の影響は企業規模によって差があると見られる。

経営上の重視点

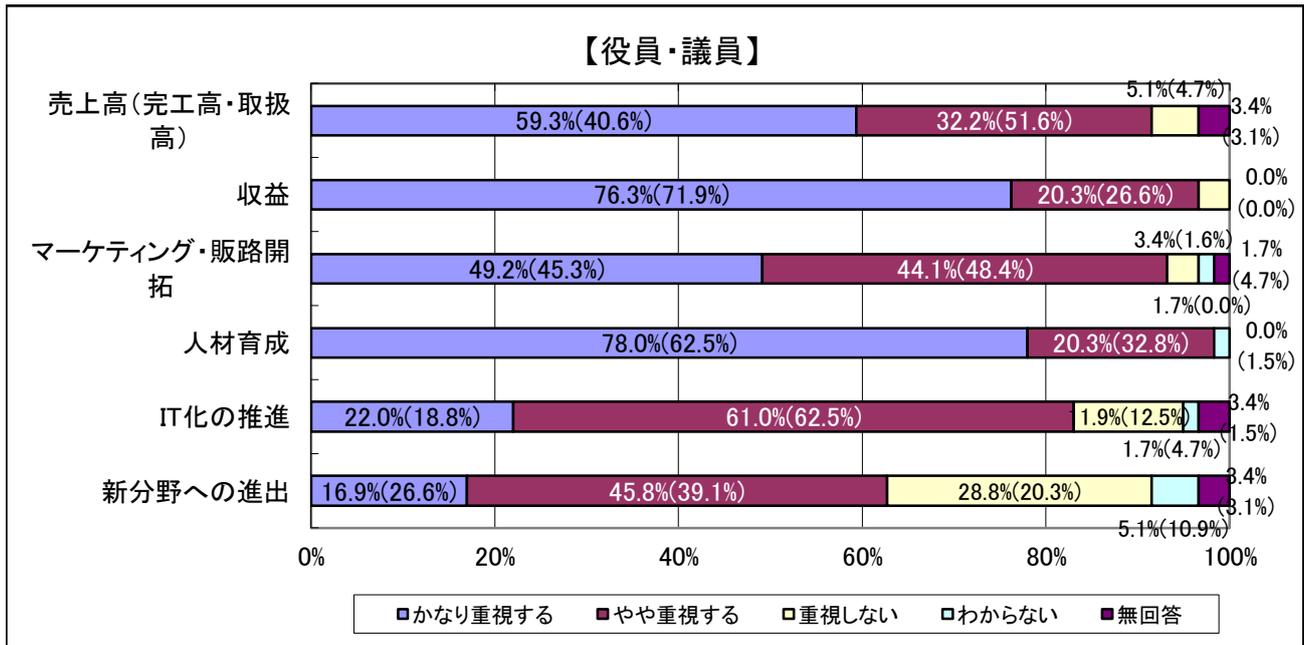
※ グラフの()内は、前年数値



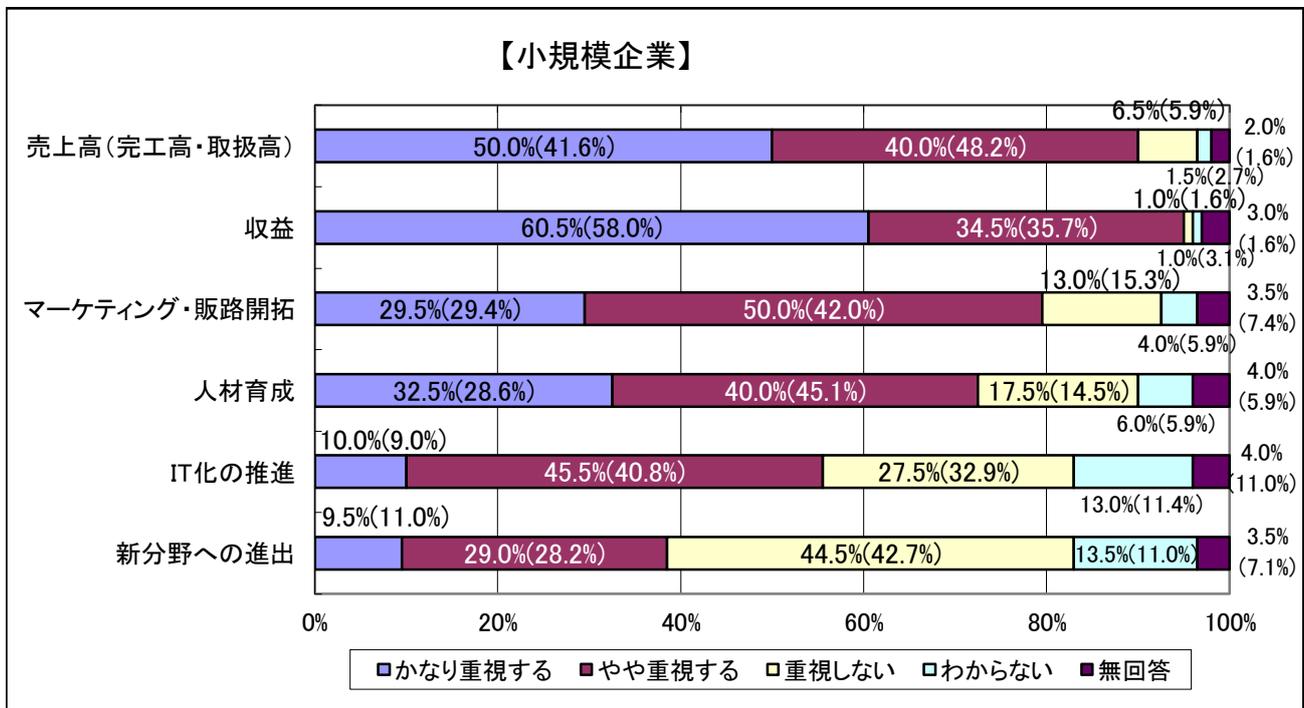
「(かなり+やや)重視する」割合が高いのは「収益」で95.4%(対前年比+0.7%)、次いで「売上高」が90.3%(対前年比0)、「マーケティング・販路開拓」で82.6%(対前年比+6.7%)となった。

規模別の経営上の重視点

※ グラフの()内は、前年数値



「(かなり+やや)重視する」が最も高いのは「人材育成」で98.3%(対前年比+3.0%)、次いで「収益」が96.6%(対前年比-1.9%)、「マーケティング・販路開拓」が93.3%(対前年比-0.4%)、「売上高」が91.5%(対前年比-0.7%)と、4項目で9割を超えた。

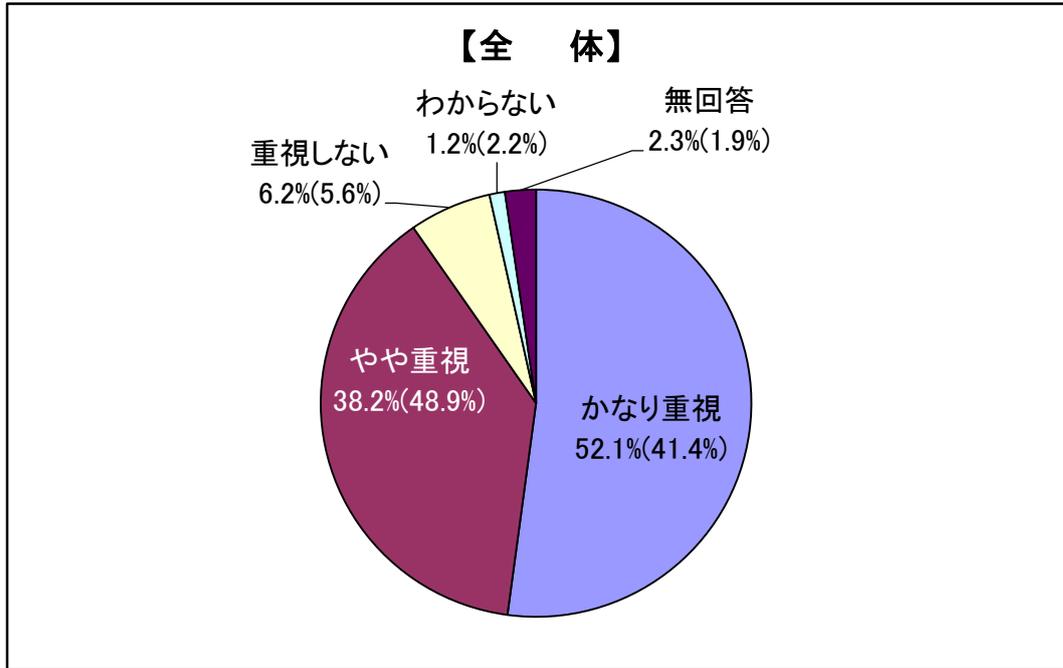


「(かなり+やや)重視する」割合が最も高いのは「収益」で95.0%(対前年比+1.3%)。【役員・議員】で98.3%が「重視する」と回答した「人材育成」は72.5%(対前年比-1.2%)に留まった。

経営上の重視点

※ グラフの()内は、前年数値

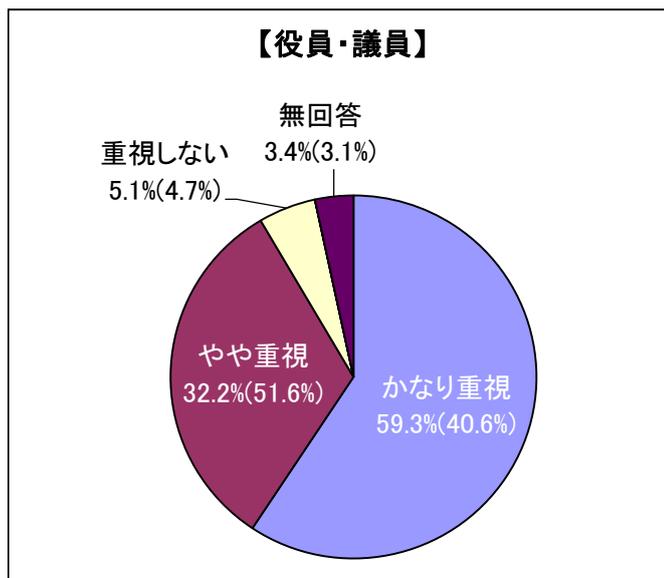
<売上高> トップは「かなり重視」 52.1%



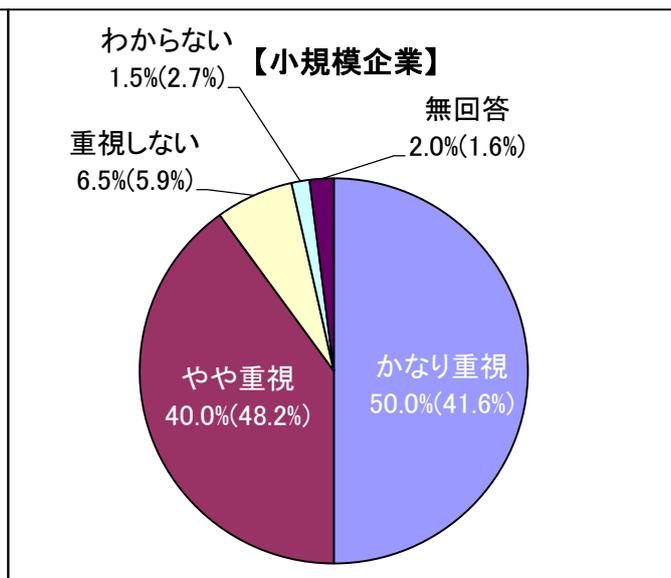
売上高については「かなり重視する」が52.1%(対前年比+10.7%)、「やや重視する」が38.2%(対前年比-10.7%)となり、前年と順位が入れ替わる結果となった。

規模別の経営上の重視点

<売上高> トップは「かなり重視」 59.3%



<売上高> トップは「かなり重視」 50.0%

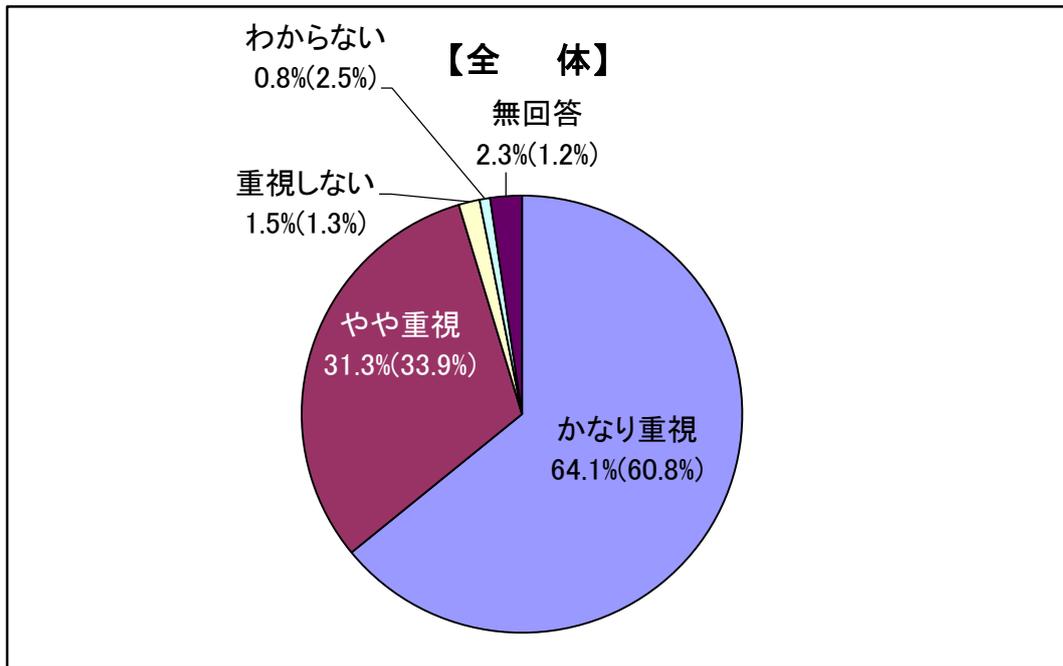


「かなり重視」が【役員議員】で59.3%(対前年比18.7%)、【小規模企業】で50.0%(対前年比8.4%)と企業規模に関わらず大幅増となった。

経営上の重視点

※ グラフの()内は、前年数値

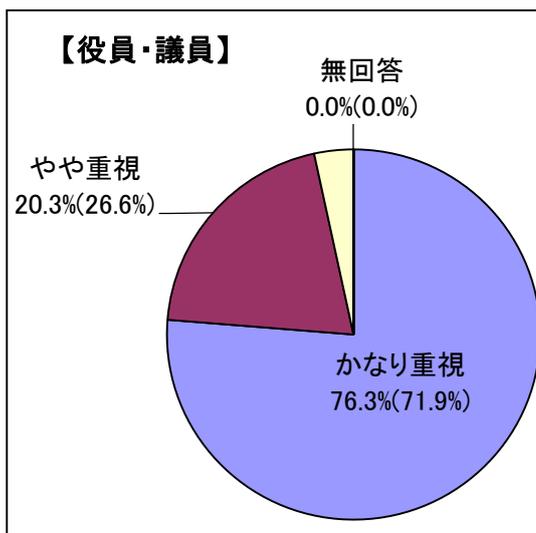
<収益> トップは「かなり重視」 64.1%



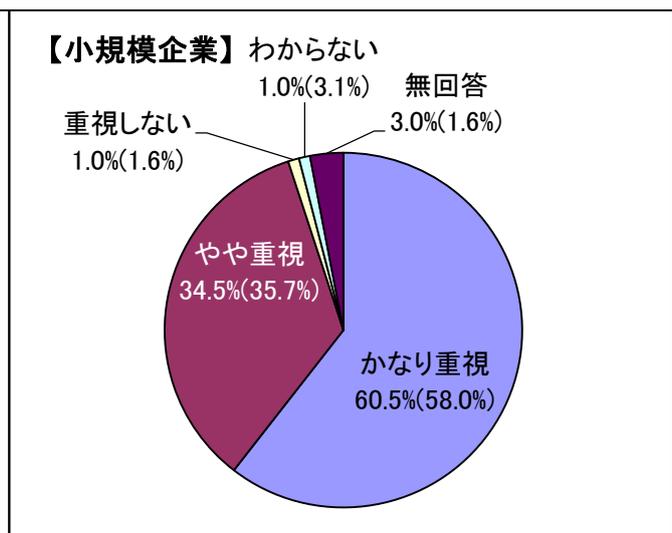
「かなり重視する」が64.1%(対前年比+3.3%)、「やや重視する」が31.3%(対前年比-2.6%)で「重視する」95.4%となり、対前年比+0.7%となった。

規模別の経営上の重視点

<収益> トップは「かなり重視」 76.3%



<収益> トップは「かなり重視」 60.5%

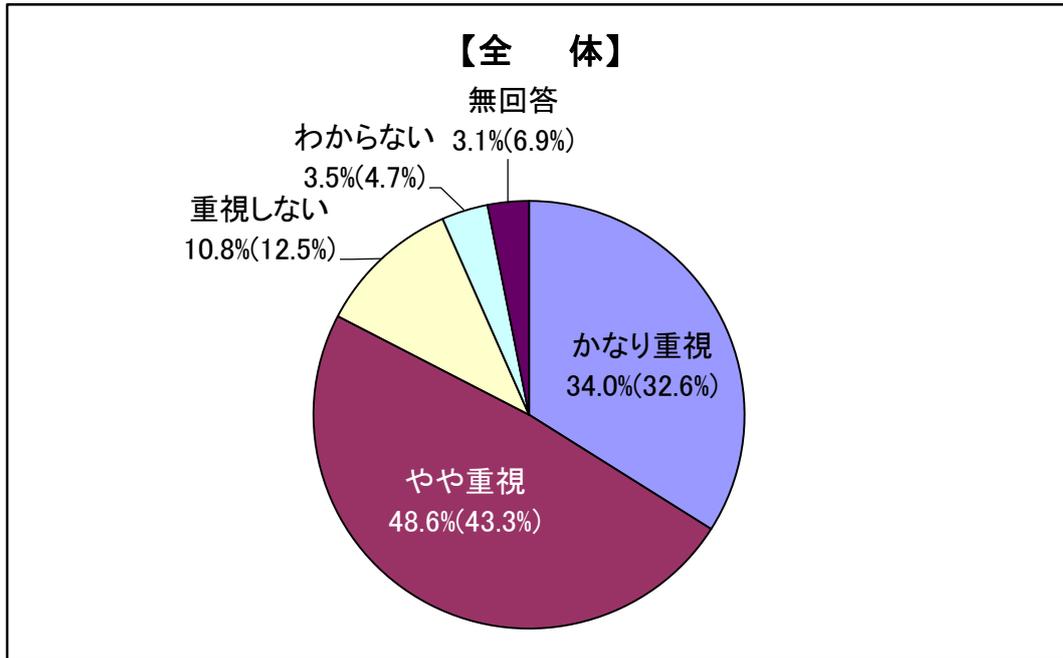


【役員・議員】、【小規模企業】ともに「重視する」がそれぞれ96.6%(対前年比-1.9%)、95.0%(対前年比+1.3%)と高い割合を占めている。特に【役員・議員】では「かなり重視する」が76.3%と、【小規模企業】に比べ15.8%高くなっている。

経営上の重視点

※ グラフの()内は、前年数値

<マーケティング・販路開拓> トップは「やや重視」 48.6%

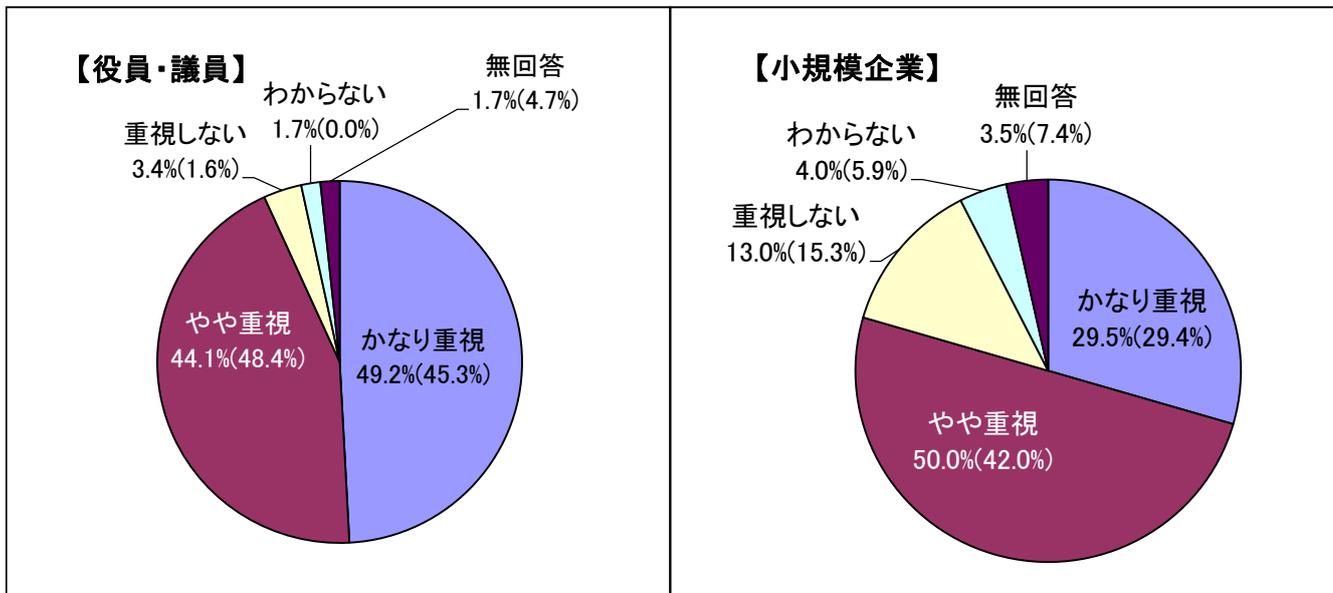


「やや重視」が48.6%(対前年比+5.3%)でトップ、次いで「かなり重視」が34.0%(対前年比+1.4%)、「重視しない」が10.8%(対前年比-1.7%)。昨年と比較すると「重視」する傾向が強まったと言える。

規模別の経営上の重視点

<マーケティング・販路開拓> トップは「かなり重視」 49.2%

<マーケティング・販路開拓> トップは「やや重視」 50.0%

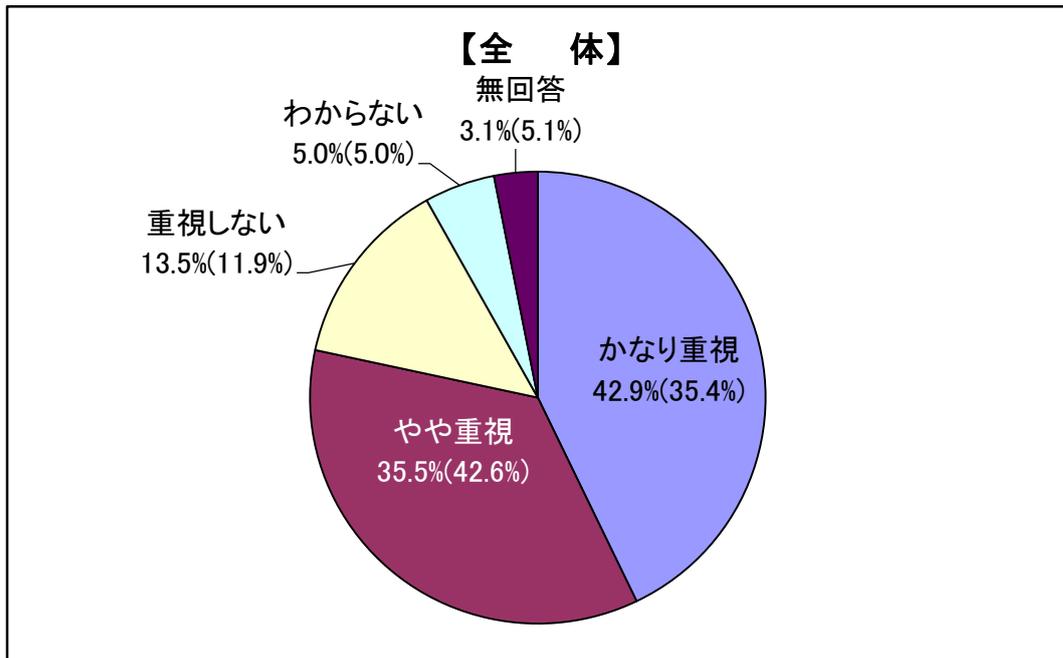


【役員・議員】は昨年とトップが入れ替わり、「かなり重視」が49.2%(対前年比+3.9%)、「やや重視」が44.1%(対前年比-4.3%)となった。【小規模企業】では昨年と比較し「かなり重視」(対前年比+0.1%)、「やや重視」(対前年比+8.0%)とも増加した。

経営上の重視点

※ グラフの()内は、前年数値

<人材育成> トップは「かなり重視」

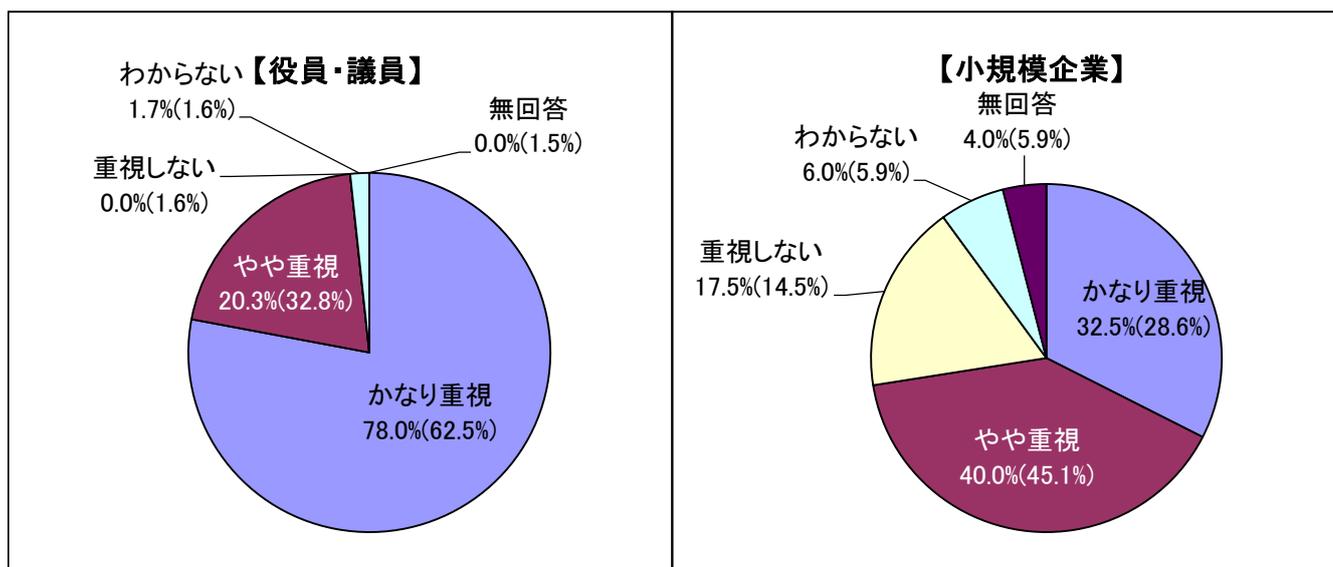


「かなり重視する」が42.9%(対前年比+7.5%)でトップ。次いで、「やや重視する」が35.5%(対前年比-7.1%)と、前年と順位が入れ替わった。

規模別の経営上の重視点

<人材育成> トップは「かなり重視」 78.0%

<人材育成> トップは「やや重視」 40.0%

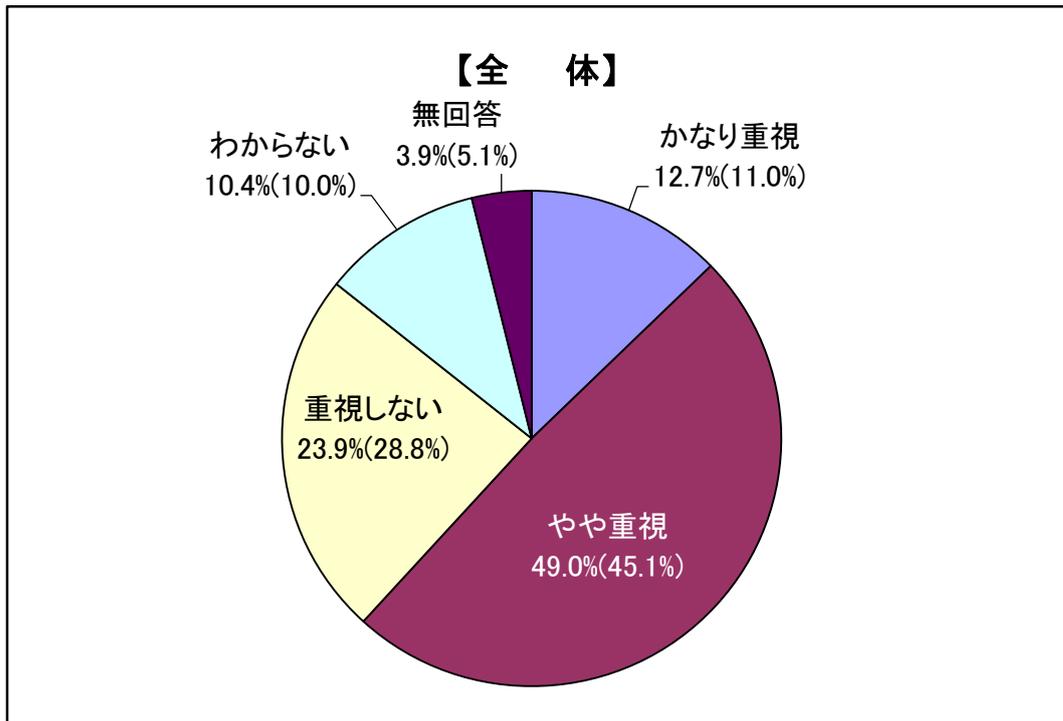


【役員・議員】では「かなり重視」が78.0%(対前年比+15.5%)と大幅に増加、【小規模企業】では「(かなり+やや)重視する」が72.5%で、対前年比-1.2%とわずかに減少となった。

経営上の重視点

※ グラフの()内は、前年数値

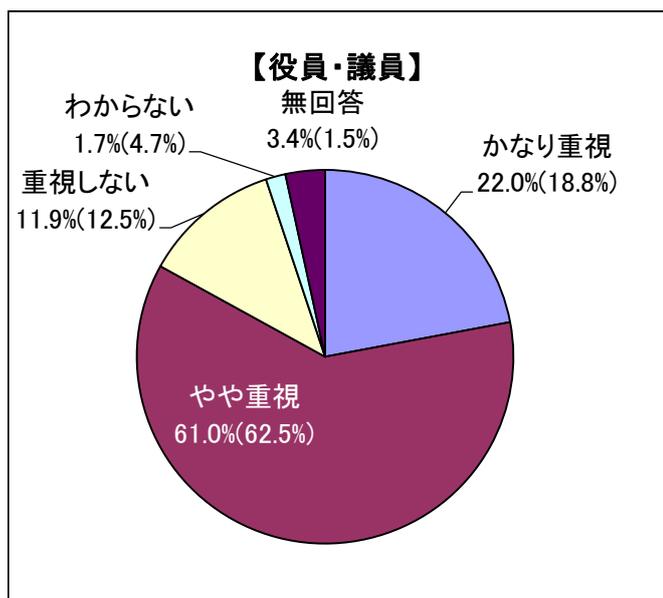
<IT化の推進> トップは「やや重視」 49.0%



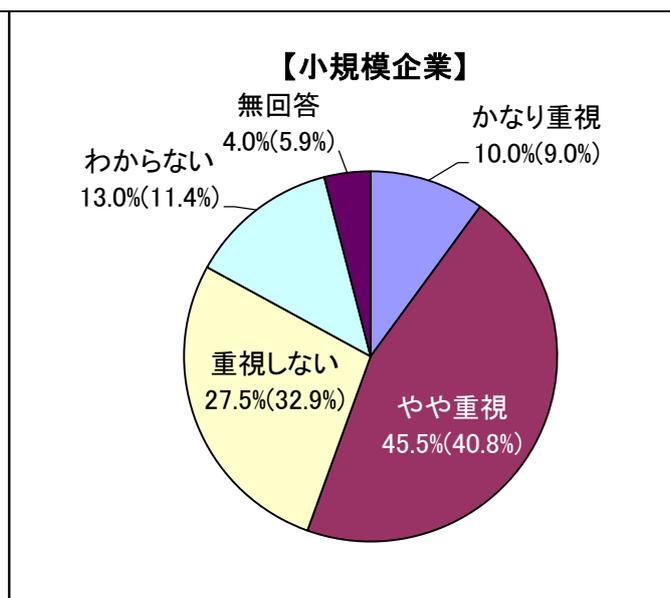
トップは「やや重視する」で49.0%(対前年比+3.9%)、次いで「重視しない」が23.9%(対前年比-4.9%)。「かなり重視する」も対前年比+1.7%で、「重視する」がわずかながら増加しており、前年と比較してIT化を重視する傾向にある。

規模別の経営上の重視点

<IT化の推進> トップは「やや重視」 61.0%



<IT化の推進> トップは「やや重視」 45.5%

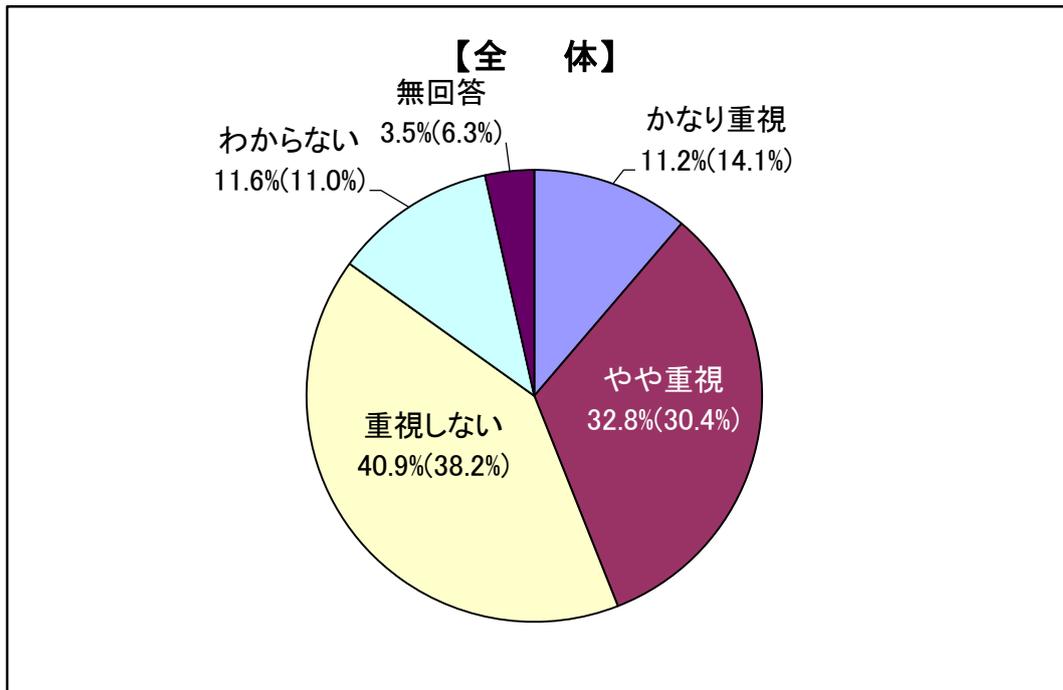


「(かなり+やや)重視する」の割合は【役員・議員】が83.0%(対前年比+1.7%)であるのに対し、【小規模企業】は55.5%(対前年比+5.7%)で、その差は27.5%と、前回同様大きな開きがある。

経営上の重視点

※ グラフの()内は、前年数値

＜新分野への進出＞ トップは「重視しない」40.9%

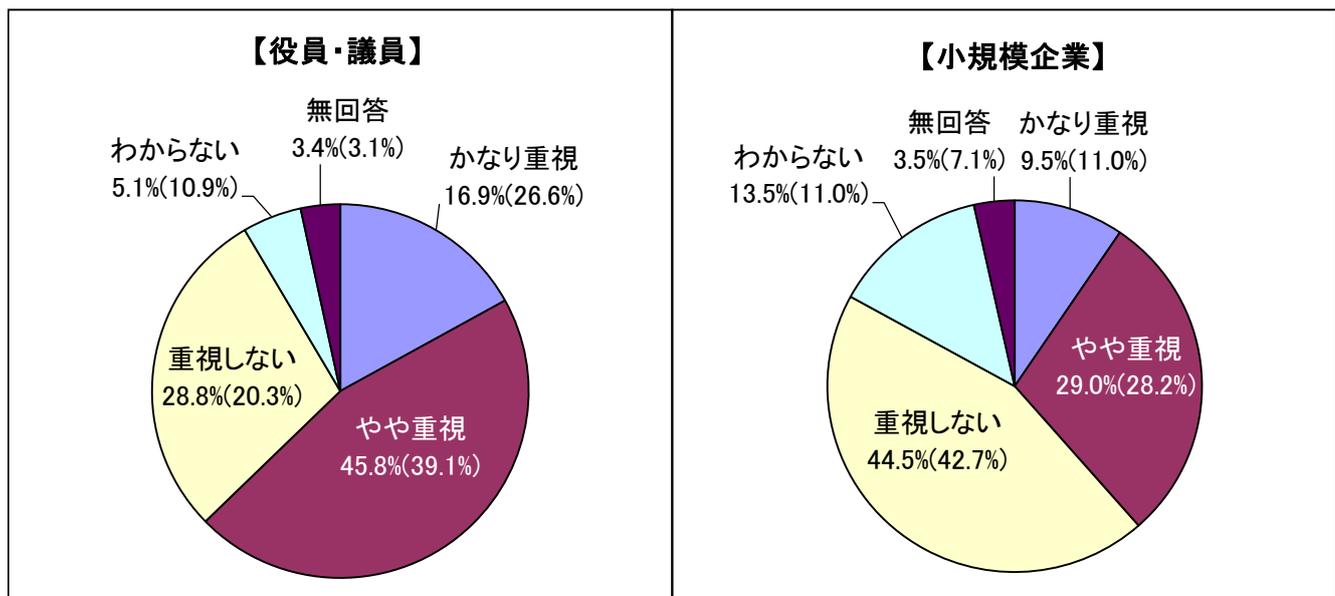


前回同様「重視しない」が40.9%(対前年比+2.7%)でトップ、次いで「やや重視」が32.8%(対前年比+2.4%)という結果となった。

規模別の経営上の重視点

＜新分野への進出＞ トップは「やや重視」45.8%

＜新分野への進出＞ トップは「重視しない」44.5%



「(かなり+やや)重視する」の割合は【役員・議員】が62.7%(対前年比-3.0%)であるのに対し、【小規模企業】は38.5%(対前年比-0.7%)で、その差は24.2%と、前回同様大きな差がある結果となった。

2017年経済予測アンケート

景 気

Q1 景気の現状について昨年（2015年）11月と比較して、どのように感じてもらえますか。該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

- | | |
|-------------|-----------|
| (1) かなり好転 | (2) やや好転 |
| (3) 変わらない | (4) やや悪化 |
| (5) かなり悪化 | (6) わからない |
| (7) その他 () | |

Q2 県内の景気動向についてお尋ねします。本格的な景気回復の時期は、いつ頃からと思われますか。該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| (1) 既に回復している | (2) 2017年上期から回復 |
| (3) 2017年下期から回復 | (4) 2018年から回復 |
| (5) 2018年以降に回復 | (6) わからない |
| (7) その他 () | |

産業全体

Q3 現在（2016年11月）の業況水準を基準に、2017年の県内の各産業別の見通しについて、どのように予測されますか。□欄に○印をお付け下さい。（自社以外の業種についてもご回答をお願い致します。）

	かなり好転する	やや好転する	変わらない	やや悪化する	かなり悪化する	わからない
1. 全業種						
2. 製造業						
3. 建設業						
4. 運輸・通信業						
5. 卸売・小売業						
6. 飲食業						
7. 金融・保険業						
8. サービス業						

（※1～8の全ての業種に該当箇所のチェックをお願い致します。）

円市場

Q 4 - 1 現在（2016年11月上旬）の為替水準を基準に、2017年の円市場の見通しについて、どのように予測されますか。
該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

※参考 東京外国為替 円(1ドル=円) (11月10日)

【始値】105.81 【高値】105.96 【安値】104.97 【終値】105.63

- (1) かなり円安傾向が進む (2) やや円安傾向が進む
(3) ほとんど変化はない (4) やや円高傾向に進む
(5) かなり円高傾向に進む (6) わからない
(7) その他 ()

Q 4 - 2 貴社にとって望ましい為替水準はいくらですか？
ご記入をお願いします。

(1ドル=) 円)

株式市場

Q 5 - 1 2017年の株式市場の見通しについて、現在（2016年11月上旬）の株式市場の水準を基準に、どのように予測されますか。
該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

※参考 国内株式 日経平均(円) (11月10日)

【始値】16,562,86 【高値】17,393,82 【安値】16,560,66 【終値】17,344,42

- (1) かなり株安傾向が進む (2) やや株安傾向が進む
(3) ほとんど変化はない (4) やや株高傾向に進む
(5) かなり株高傾向に進む (6) わからない
(7) その他 ()

Q 5 - 2 貴社にとって望ましい株価水準はいくらですか？
ご記入をお願いします。

() 円)

金利

Q 6 2017年における金利の見通しについて、今年（2016年11月上旬）の金利水準を基準に、どのように予測されますか。
該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

- (1) かなり低金利傾向が進む (2) やや低金利傾向が進む
(3) ほとんど変化はない (4) やや高金利傾向に進む
(5) かなり高金利傾向に進む (6) わからない
(7) その他 ()

経営の問題点

Q 7 2017年における貴社の経営上の問題点を、どのように予測されますか。
該当する番号を○でお囲み下さい。(3項目以内)

- | | |
|--------------------|-------------------------|
| (1) 需要の停滞 | (2) 取引条件の悪化 |
| (3) 金利負担の増加 | (4) 人件費の増加 |
| (5) 原材料価格の上昇 | (6) 材料費・人件費以外の経費の増加 |
| (7) 販売・利用価格の上昇難 | (8) 消費税増税に伴う価格転嫁難 |
| (9) 従業員の確保難 | (10) 大型店,競合店の進出による競争の激化 |
| (11) 事業資金の借入難 | (12) IT化への対応難 |
| (13) ニーズ変化への対応難 | (14) 熊本地震で被災した自社の復旧 |
| (15) 熊本地震による取引先の減少 | |
| (16) その他(|) |

経営の重視点

Q 8 2017年に貴社の経営上、重視される点についてどのように予測されますか。なお、本問では回答集約の都合上、選択肢を下記の6項目に限定させて頂いております。該当の□欄に○印をお付け下さい。

	かなり重視する	やや重視する	重視しない	わからない
1. 売上高 (完工高、取扱高)				
2. 収益				
3. マーケティング 販路開拓				
4. 人材育成				
5. IT化の推進				
6. 新分野への進出				

コメント

- ① 熊本地震からの復興に関して、必要なこと、期待すること、また望まれる経済対策などについて、ご意見、ご提言等ございましたら、ご自由にご記入願います。

- ② 熊本経済の発展に向けて、必要なこと、期待すること、また望まれる経済対策などについて、ご意見、ご提言等ございましたら、ご自由にご記入願います。

ご協力ありがとうございました。